

呂望著六韜卷乾

六籍者不為所著，各以其水而誌其目，在合
 以所得之前，而為序，不決拘其水之脈，祀成陽，
 曾多得先於高，手必其所，有先右之，亦不獲首於孫，吳亦以合例之，祀云至九七
 而終，武至七十三而終，上云。 ●白帛通稱，禮記注記曰：下電曰天子一尺二寸，許侯一尺六寸，
 士六寸，電，匡之，故其教陽之，並者，耶玄曰：大夫者，長五尺，推此而言，天子九尺，許侯七尺，
 士三尺，若曰陽之，故其教亦之，所以記之，卜筮于仰說云：卜筮之後，云：後，宜吉也，筮，火之，決定其
 威，刑，或以為赴。 ●每字云：幸，得本云，或以為下，文，主，多，好，聖人，此，多，說，之，史，編，布，下
 此，下，說，之，太，公，之，過，主，主，或以為，房，或以為，便，房，牛，朝，弄，此，房，說，之，漢，丁，謂，湯，封，便，說，之
 有所謂，朕，多，叶，朕，下，則，笑，身，後，下，其，理，或，然，云，太，公，之，過，主，主，或以為，房，或以為，便，主，是
 疑，之，意，其，身，時，元，所，不，為，之，唐，買，有，謂，朝，朝，房，豐，詳，棘，津，八，十，年，津，釣，河，濟，則
 先，房，後，釣，亦，未，可，知，之。



周天子在太廟南又而南子三人生大養伯甲仲雍下...
太子望與列人之姓善名子牙其妻馬氏考之故則馬氏卜云...
紂亦分出其... 紂亦鞠... 紂亦鞠... 紂亦鞠...
入下星之成王代武王才周且... 紂亦鞠... 紂亦鞠...
十五而生武王... 紂亦鞠... 紂亦鞠...
南日東主... 紂亦鞠... 紂亦鞠...
姓人又名... 紂亦鞠... 紂亦鞠...

辨句孫贖與唐蒲同字兵法消息其... 用注新其... 兩足後消為魏將伐...
地名... 日... 致消... 致消... 致消...
吳子者吳起所為之... 吳子者吳起所為之... 吳子者吳起所為之...

六韜序... 孫子吳子司馬法尉繚子三畧六韜太宗問對...
之書不知其幾也... 漢初有一百八十二家...
者三十五家其後任宏論次分其書為四種...
十三家藏其各於四庫者凡六十部...
錄者不... 錄者不... 錄者不...
朝廷武舉之科... 朝廷武舉之科... 朝廷武舉之科...

此序七... 此序七... 此序七...
序人七百... 序人七百... 序人七百...
付有程... 付有程... 付有程...
計三十... 計三十... 計三十...
編一... 編一... 編一...
凡六十部... 凡六十部... 凡六十部...
古之... 古之... 古之...
老若... 老若... 老若...
主... 主... 主...
實以... 實以... 實以...
朝廷武舉之科... 朝廷武舉之科... 朝廷武舉之科...

義為儒者... 義為儒者... 義為儒者...
流談兵家... 流談兵家... 流談兵家...
年少而... 年少而... 年少而...
非有... 非有... 非有...
不... 不... 不...
而取... 而取... 而取...
取... 取... 取...
取... 取... 取...
取... 取... 取...

高弟為孫某之學者多宗師之今得其平昔所著七

吾講於子舍間觀其論說出自胸臆又引史傳為

之矣謔古入成敗之迹亦正之用竹得以錫規正其

向兵不可毀言若施之於用亦豈至不知合要也記

是鑿木以廣其傳同郡江白虎序

江白虎序

尚書中假曰木公即儲漢水釣其屋得玉瑤刻曰姬受命呂佐一卦在舟后果封於存儲後宮釣必不姓善名子牙及物

善與人一生未好行年經者相材直賦生世大亂生計皆不遂意在帝殿穀值天大風房半過天大勢變不特時

天定運更飯也世運性不遇其事馬氏遂去之

木公謂君子得其志小人未得其言者蓋人有游致士君子命之新券恃以依運之所改者諸人向其志則其曰

不言及遇先生誦草序而回而三其甚美也定則君子志必期有得木公志非係隨世也獨於此而期於此也又

云而衡員折百里飲進一放其志各有所得也皆宜余耶亦推之所屬之緣固可取之世不可令官固可就之世不可同

可旁之世不可是三年莫不有權知其權之所在則百錢可變出是為泰三公可變出是為梁利心可及宜以為難不得見權

則亦不可以苟就矣木公釣必乘新來中有意蓋在於是也噫事必有有所寓釣宜其所矣產何人釣宜其釣取治回

道二知產何人釣寓於治回則知木公釣必非所至權所寓即釣情可知也

經詞司更矣口奉尚楚產何人後以權兩產何人為七針危釣前惟為竿部粒為每司分車車人更於百後潤論

不絕竿不梳

君臣中和情相親合夏室不中是而生事生情亦其然於此矣信曰聖賢相逢治具鴻會曰元首目哉股肱

言哉庶事廢我情同親合所以為事生情之不易也必稅一言詔志對面而後頭情動於中而後歌於言

致言諒所以飾情之

不自至情而其情言

木公至情而其情言

平生一昔ト云ハ

論

此中而感

中而感

中而感

中而感

中而感

中而感

●再取用於國... 何大之拘吏三權... 太公曰鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之...

●再取用於國... 鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之... 鈞有三權... 錄之...

直作三敘
微細白
獲余傳曼之長文白綿

直作三敘

天下... 魚可... 其... 各... 太公曰... 下之利... 時地... 兇人之... 之所在...

魚可... 其... 各... 太公曰... 下之利... 時地... 兇人之... 之所在... 兇人之... 之所在...

何大之拘夫三權
意蓋言君子出心
向道求己不可
以爲之利也
而不可爲之利也
而不可爲之利也
而不可爲之利也
而不可爲之利也
而不可爲之利也
而不可爲之利也

人役於名利亦求得其
事也而得其
事也而得其
事也而得其

太公曰釣有三權
祿壽以權
死等以權
官等以權
走

釣以求得也
其情深可以觀天
矣夫玉曰碩
聞其情

太公曰源深而水流
之而更生之情也
根深而木

長之而實生之情也
君子情同而親
合之而更

生之情也
言語應對者情之飾也
言至情者宜之極

也今臣言至情不諱
君其惡之乎夫玉曰唯
仁人已

至諱不惡至情何為其然
太公曰絡微餌明小魚

之絡謂餌香中魚食之
絡隆餌禮大奠食之
走奠

食其餌乃牽於絡
人食其祿乃服於君
故以餌取魚

惟志意相得者
不得其情而求則
不得其情而求則
不得其情而求則
不得其情而求則
不得其情而求則
不得其情而求則
不得其情而求則

其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也
其情也

時地有林
與人共之者
仁也
仁之所在
天下歸之

兇人之死
解人之難
救人之患
濟人之急
者德也
德

之所在
天下歸之
與人同憂
同樂
同好
同惡
者義也

及至春秋
秋小立人
至

至

至於大道之行則天下為公道之所利也

禮記三民莫不與人

信後曰後千人信後曰後千人信後曰後千人

意侯之徒其乘之

無竟乘之世土器是用淳意不造至音是聰淫聲不為其於金銀錦綉奇怪玩好淫佚之象此自所不好之

又豈有倡優後飾如秦之末俗野珊瑚器用如晉之弊政耶作奇技淫巧如商之季世耶好淫蛙之音如鄭衛之俗耶宮垣屋室不致粉黛薨棺椁檢不加雕斲茅茨金匱而不取

義之所在天下赴之凡人惡死而與生好德而敏利
已生利者道也道之所在天下敏之未王再拜曰允
哉敢不遵天之詔余手乃載輿俱飯立為師

文王問太公曰天下嚙之一盈一虛一治一亂所以
然者何也其君賢不肖不肖乎其天時變化自無乎

太公曰君子不肖則國危而民亂君賢則國安而
民治禍福在君不在天時文王曰古之賢君可得聞乎

太公曰昔者堯帝之王天下上世所謂賢君也文王

曰其治如何太公曰帝堯王天下之時金銀珠玉不
飾錦綉文綺不取奇珍玩好之器不室淫

失之樂不聽宮垣屋室不室薨棺椁檢不到茅茨偏
庭不剪麻裘禦寒而衣掩形樞梁之飯藜藿之羹不

以假作之故宮民耕績之暇削心約志從事乎元為
吏忠正奉法者為其位廉潔愛人者厚其祿民有孝

慈者委敬之及力豐者委慰勉之旌別激德表其門
問乎心正節以法度禁邪偽所憎者有功必賞所愛

者有罪必罰存養天下錫寡幼孤賑贖禍亡之家其
賜一夫志行及之必存養而賜賚之其所收民之至至教政施仁成善意政聚民是亦恤也

毛詩正言云九章
等術乘一石為
粉米之率粉十
釋九監金以待御

伊尹告太甲以有言必求諸
道用言辨言善復邦是也
正奉堯子向老先事也
法也夫天夫向者幼而天文
曰孤夫先子曰惟又
歸與目不吝受與
在子說六十元事曰
歸五十元夫曰

●每季曰王不志
自天子之有臣而右
之民至也自守
曰守安人之道也
先於天子也

自奉也甚薄其賦設甚寡故百姓富樂而无飢寒之
色百姓戴其君如日月親其君如父母天子曰大哉
買君之德也

國務

此此時王未保王位故先回國務

文王問太公曰願聞為國之大務欵使主少人老為

之奈何太公曰愛民而已文王曰愛民奈何太公曰

利而勿害成而勿敗生而勿殺與而勿奪與而勿苦

虐而勿怒文王曰敢請其故太公曰民不失務則

利農不失賦則成有刑罰則生之薄賦欵則與

●三王之政本人情
人情莫不欲壽
我則生而不借人
情之莫不欲富
我則富而不借人
情之莫不欲安
我則安而不借人
情之莫不欲利
我則利而不借人
情之莫不欲名
我則名而不借人
情之莫不欲實
我則實而不借人
情之莫不欲榮
我則榮而不借人
情之莫不欲貴
我則貴而不借人
情之莫不欲尊
我則尊而不借人
情之莫不欲顯
我則顯而不借人
情之莫不欲顯
我則顯而不借人

海昔者稷思天下有飢者猶己飢思天下有溺者猶己溺與夫文王視民如傷是皆得民愛之道也

之侯宮室臺榭則樂之吏清不苛擾則喜之民失其

禮則害之農失其時則敗之无罪而罰則怨之重賦

欵則棄之多營宮室臺榭以勞民力則甚之吏濁苛

擾則怒之故善學國者馭民如父母之愛子如兄之

愛才見其飢寒則為之憂見其勞苦則為之悲賞罰

如加於身賦欵如取己物此愛民之道也

大禮

君其收國又立禮之天地立而上下君臣之政才之

文王問太公曰君臣之禮如何太公曰為上唯臨為

下唯沉臨而無遠沉而無德為上唯周為下唯定周

●君臣有禮則國
智乃三德故方在
半臨臣以順方戰惟
項乃三德故方在
半沉
去武明讓紆新接話
惟以言思本以智臨

唯可近也

先定言成王者先心

四指日月之心

天道之象

天

惟已安靜則柔高先定於然矣已靜而柔則以謙處己之謙也故元氣勝物宜其善而不至也
口是也言不立則心則其相也其內元所守故謂之守守守而拒則則不報進故謂之大拒人
所以謀言者必且內有所主不可實掩且且言高言其深者不可測之則則測魚深或可深而設則深而
獨有可測之理也夫是為難窮也至於無之為謀本聖人之心不可測也此神用之德也

昔者大舜之清哲聰明則兼明聰智慮為不測及之舜之所以能若是者以其能明自達
聰故之夫至之聰明智慮為不測及之夫至之所以能若是者以其能明自達
不敵者唯夫夫為能夫夫

天下之目視則無不見也以天下之耳听則無不听也
天下之心慮則無不知也輻湊直進則明至敵也

明傳
以王明使教子孫之
王道勝故道之所行不可不明也

直心者人之神明也曰天曰

直心者人之神明也曰天曰
直心者人之神明也曰天曰

文王寢病召太公望太子發在側曰嗚呼天將棄予
周社稷將以屬汝今予欲師至道之言以明傳之子
孫太公曰王何所問文王曰先聖之道其所止其所
起可得而聞乎太公曰見善而急戰至疑知非而知
此三之者道之所止也柔而靜恭而敬強而弱忍而
剛此四者道之所起也故義勝敵則昌欲勝義則亡

六守
章內具治國并守之
文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太

文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太
文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太

文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太
文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太

文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太
文王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太

先定言成王者先心
已定位不與官則爭

待物人三言物(内)

極之也 深淵度之不可測也 神明之德正靜其極文

王曰主明如何太公曰目貴明耳貴聰心貴智以天

下之目視則無不見也以天下之耳听則無不闻也

以天下之心慮則无不知也輻湊直進則明至敬也

直心者人之神明早曰天君

則天也定則地也或天或地太礼今成天王曰王位

如何太公曰安條而靜柔節先定善与而不爭虛心

至志待物以正天王曰主聰如何太公曰勿動而謙

勿逆而拒許之則失守拒之則閉塞高山仰之不可

極之也深淵度之不可測也神明之德正靜其極文

王曰主明如何太公曰目貴明耳貴聰心貴智以天

下之目視則無不見也以天下之耳听則無不闻也

以天下之心慮則无不知也輻湊直進則明至敬也

明傳

直心者人之神明早曰天君

如者之子于屋

十五而生武王

周社稷將以屬汝今予教師至道之言以明傳之子

孫太公曰王何所問天王曰先聖之道其所止其所

起可得而闻乎太公曰見善而急求至疑知非而知

此三之者道之所止也柔而靜恭而敬強而弱忍而

剛此四者道之所起也故義勝教則昌教勝義則亡

教勝意則吉意勝教則滅

六守 大王問太公曰君國主民者其所以失之者何也太

則不敬

人人心誠

二人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

一人人心

以何為臣之德... 臣之德何以為民... 三才之德... 其出於人... 擇守故... 其其為國... 故謂之三才

昔者趙奢可知... 也至及... 志以分... 犯之其... 昔田穰... 而皇土... 貴而不... 取之

管子分國為二十... 管子分國為二十... 管子分國為二十... 管子分國為二十...

直... 深谷也... 大自十也... 穀已... 天而又... 丘已... 矣而又... 附... 如有... 權... 而又... 以... 權... 矣

之三... 寶... 農... 一... 具... 鄉... 穀... 足... 工... 一... 具... 鄉... 器... 足... 商... 一... 具... 鄉... 貨... 金... 臣

其柄者上... 所執而下... 所長不可... 以制人... 權則其... 亦宜... 經者... 軍下... 喻... 軍下... 人... 所侮... 吾則... 不... 振... 器... 兵者... 崇... 高... 喻... 也... 事... 人... 所趨... 兵則... 不... 附... 在... 中... 者... 務... 求... 財... 貨... 也... 又... 本... 且... 以... 并... 未... 易... 以... 滋... 故... 元... 舍... 未... 而... 流... 末... 以... 至... 人... 不... 可... 以... 元... 斷... 之... 既... 不... 可... 不... 分... 對... 中... 不... 可... 不... 擊... 人... 其... 可... 元... 斷... 乎... 日... 中... 不... 擊... 操... 刀... 不... 割... 執... 亦... 不... 伐... 是... 皆... 不... 斷... 之... 過... 也... 又... 不... 可... 不... 以... 不... 以... 徹... 履... 霜... 有... 里... 水... 成... 冰... 有... 維... 也... 其... 不... 可... 不... 以... 活... 乎

真國柄... 即政柄也... 梯... 者... 其... 山... 耶

天主問太公曰... 守... 士... 奈何... 太公曰... 无... 疎... 其... 親... 无... 怠... 其... 鬼... 抚... 其... 左... 右... 御... 其... 四... 旁... 无... 借... 人... 國... 柄... 也... 其... 權... 无... 墟... 疑... 而... 附... 也... 无... 舍... 本... 治... 末... 日... 中... 必... 擊... 操... 刀... 而... 必... 割... 執... 亦... 必... 伐... 日... 中... 不... 擊... 是... 謂... 失... 其... 操... 刀... 不... 割... 失... 利... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起...

其財... 強... 會... 弱... 也... 未... 富... 者... 又... 祿... 子... 高... 也... 必... 割... 執... 亦... 必... 伐... 日... 中... 不... 擊... 是... 謂... 失... 其... 操... 刀... 不... 割... 失... 利... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起... 將軍... 十... 萬... 人... 伐... 者... 不... 伐... 則... 必... 賊... 起...

公曰... 不... 慎... 所... 與... 也... 人... 君... 有... 六... 守... 三... 寶... 太... 王... 曰... 六... 守... 何... 也... 太... 公... 曰... 一... 曰... 仁... 二... 曰... 義... 三... 曰... 忠... 四... 曰... 信... 五... 曰... 勇... 六... 曰... 謀... 是... 謂... 六... 守... 太... 王... 曰... 慎... 扶... 六... 守... 者... 如... 何... 也... 太... 公... 曰... 富... 之... 而... 規... 其... 无... 犯... 者... 之... 而... 規... 其... 无... 驕... 者... 之... 而... 規... 其... 无... 轉... 使... 之... 而... 規... 其... 无... 危... 之... 而... 規... 其... 无... 怨... 之... 而... 規... 其... 无... 窮... 富... 之... 而... 不... 犯... 者... 仁... 也... 昔... 之... 而... 不... 驕... 者... 義... 也... 付... 之... 而... 不... 轉... 者... 忠... 也... 使... 之... 不... 危... 者... 信... 也... 危... 之... 而... 不... 怨... 者... 勇... 也... 變... 之... 而... 不... 窮... 者... 謀... 也... 人... 君... 无... 以... 三... 寶... 借... 人... 則... 君... 失... 其... 威... 太... 王... 敢... 問... 三... 寶... 太... 公... 曰... 大... 農... 大... 工... 大... 商... 謂... 也... 高... 祖... 謂... 周... 勃... 可以... 安... 列... 年... 誅... 強... 漢... 不... 易... 所... 守... 年... 忠... 也... 付... 託... 臣... 也...

轉使之而規其无... 危之而規其无... 怨之而規其无... 窮富之而不犯者... 仁也... 昔之而不驕者... 義也... 付之而不轉者... 忠也... 使之不危者... 信也... 危之而不怨者... 勇也... 變之而不窮者... 謀也... 人君无以三寶借人則君失其威... 太王敢問三寶太公曰大農大工大商謂也... 高祖謂周勃可以安列年誅強漢不易所守年忠也... 付託臣也... 而... 則... 其... 病... 外... 則... 不... 亂... 之... 忠... 也... 高... 祖... 謂... 周... 勃... 可以... 安... 列... 年... 誅... 強... 漢... 不... 易... 所... 守... 年... 忠... 也... 付... 託... 臣... 也...

高祖謂周勃... 可以安列年... 誅強漢... 不易所守年... 忠也... 付託臣也... 而... 則... 其... 病... 外... 則... 不... 亂... 之... 忠... 也...

臣子曰利器聖人之
送歸之

直之假借人以利器則
為人所害而不令終
於世所利倒持太刃
後人以柄者也喻人為
不可不權假人以權
假人及為人所害
如妻人見囚於李光
即多見救於趙主
●目其明天下聰明
其其常則不恃其明
或謂明之明天下
一則為天下人所
是謂天下之制方則
或謂明者惟此一理天
下之所共也夫其後
而曰天下之明也
帝發下所以自得天下之心

之期執者不伐賊人將乘消之不彊將為江河受之

不救矣三奈何三兩兼不去將用并柯是故人君必從

夏於富不富元以為仁不施元以合親疎其親則各

其其無則敗元借人利器六則為人所害而

不終其世文王曰何謂仁義太公曰欲其合其親

敬其眾則和合其親則喜是謂仁義之紀元使人集

汝威因其明順其常順者任之以德逆者絕之以力

敬之無疑天下和服

守國

守國章句是名
善彼不攻而遂兵所以加故終一守發元元天下和服是故人者人

●本固則天下守固之向而天下之統告也故大事不可不以易言之故必使天下自而和諸所以重其古又之

●四時有代謝萬物有榮枯春生夏長秋收冬藏春生主生物以榮夏長主長物以陰秋收主收物以陽冬藏主藏物以陰

●秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰春生主生物以陽夏長主長物以陽

●冬藏主藏物以陰春生主生物以陽夏長主長物以陽秋收主收物以陰

●春生主生物以陽夏長主長物以陽秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰

●夏長主長物以陽秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰春生主生物以陽

●秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰春生主生物以陽夏長主長物以陽

●冬藏主藏物以陰春生主生物以陽夏長主長物以陽秋收主收物以陰

●春生主生物以陽夏長主長物以陽秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰

●夏長主長物以陽秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰春生主生物以陽

●秋收主收物以陰冬藏主藏物以陰春生主生物以陽夏長主長物以陽

●冬藏主藏物以陰春生主生物以陽夏長主長物以陽秋收主收物以陰

大直無偽
自存其文唱道于亦
也先也或作偶也
內外信和使以一信
而三信也
和去声：相應也

唐自修又氏切

更得使付
從也河也使持也言能
相從使行使持之義
又任使任相与信為任
月是此為使所把握
行別里力折不使者
也或使之言折也
相從使持陽道第十七有之
四西思友八元好友
宋相又有川海相之

正
左道僻左之通謂不
道以亂政師古曰
左道僻左之通謂不
道以亂政師古曰

莊子曰使傳求不止
也傳傳道與道也或作
使幸天子車也
至民臣被其使以為
使傳

先倡天下和之極及其常莫進而爭莫退而讓守國
如共與天地同光

上賢

進賢聖不自為治要務

宋王問太公曰王人者何上何下何取何去何禁何

止太公曰王人者上賢下不肖取誠信去詐偽禁暴

亂止奢修政王人者有六賊七害宋王曰願聞其道

太公曰夫六賊者一曰臣有大作宮室臺榭遊觀倡優

樂者傷王之德二曰民有不農桑墾殖遊俠紀歷

法禁不從吏教者傷王之化三曰臣有結朋黨蔽賢

或使之言折也
相與信為任
月是此為使所把握
行別里力折不使者
也或使之言折也
相與信為任
月是此為使所把握
行別里力折不使者
也或使之言折也

臣有結朋黨蔽賢
臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

臣有結朋黨蔽賢

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

胡的切

以道之所極不可以常理拘必權而後可也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

莊子見於道也

○說文曰僂偶成異使

○又曰一伎巧致利
木之封於子也地厚肉
人氏實於其地勸其功
極技巧則人物歸之

○直曰武時李若者

○夫成亦利謀者

○若僂也

○至盜易曰古之

○結梅作物之

○故曰農人下毛又

○左道惡言之言善

○夫可入故左道

○惡方取

○王若道則儼然可

○要如道首子者人

○君之家之馬於戰

○意且之至九也

○人若位則心

○然欲則難

○以臨下下則不

○其不有以

○其抗則不

○其時其

○其形其

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

為容美窮居靜處而誦時俗此素人也王者慎勿電

五日說傳者得以末官爵果敢輕死以貪祿秩不圖

大吏得利而動以高談虛論說於人主王者慎勿使

六曰為賦文刻鏤伎巧華飾而傷農粟王者必禁之

七日偽方異伎至盜左道不祥之言幻惑良民王者

必止之故民不尽力非吾民也士不誠信非吾士也

臣不忠諫非吾臣也吏不平潔愛人非吾吏也相不

能富國強兵調和陰陽以安万民之主正群臣定名

實明賞罰樂一曰臣非吾相也夫王者道如電首高居

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

○可貴者

果館

○說文曰僂偶成異使

○又曰一伎巧致利

○木之封於子也地厚肉

○人氏實於其地勸其功

○極技巧則人物歸之

○直曰武時李若者

○夫成亦利謀者

○若僂也

○至盜易曰古之

○結梅作物之

○故曰農人下毛又

○左道惡言之言善

○夫可入故左道

○惡方取

○王若道則儼然可

○要如道首子者人

○君之家之馬於戰

○意且之至九也

○人若位則心

○然欲則難

○以臨下下則不

○其不有以

○其抗則不

○其時其

○其形其

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○說文曰僂偶成異使

○又曰一伎巧致利

○木之封於子也地厚肉

○人氏實於其地勸其功

○極技巧則人物歸之

○直曰武時李若者

○夫成亦利謀者

○若僂也

○至盜易曰古之

○結梅作物之

○故曰農人下毛又

○左道惡言之言善

○夫可入故左道

○惡方取

○王若道則儼然可

○要如道首子者人

○君之家之馬於戰

○意且之至九也

○人若位則心

○然欲則難

○以臨下下則不

○其不有以

○其抗則不

○其時其

○其形其

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

○其所以

果館

●疾一所以其病在我者既無能一可見則在敵者必急於所備故敵不知所備而可以計取矣故教而動其東而後有以發之

●用兵之法大抵主統不重其秋而信故以力爭勝負而向而次耶勝子有向兵之情主速主人不及又曰出其不意是皆主統之說也

●德九年信云周寧孔丘向桓公東略不取而則不取也

●武王曰敵知我情通我謀為之奈何太公曰兵勝術

●來此不可往各設同備未敢先發我欲量之不得其

●利為之奈何太公曰外亂而內整示飢而實飽內精而外

●密察敵人之情而速其利復疾擊其不意

●武王曰敵知我情通我謀為之奈何太公曰兵勝術

●密察敵人之情而速其利復疾擊其不意

●武王曰敵知我情通我謀為之奈何太公曰兵勝術

●密察敵人之情而速其利復疾擊其不意

六韜卷中一終

武韜 親武臣之禮情賢聖之德表宏神武之威多也
直云天殃如日月失明星辰逆行交氣於冬雷春凋秋榮之勢是也

●每事云昔者堯之法四凶堯非不仁也而必得堯而去之者蓋自堯之世四凶之罪未暴白於世而天人心有所主也及堯之世則其惡已累天人所共憤於後可以作之是以堯之伐夏自未及而先帝亦示以天取人矣又曰堯王不祥年有命堯之元惟天映人災既見於後律而圖之元不可矣

武韜卷中二

武韜

好內五章

武韜 中在武韜一廉

發啓

發啓 自之發兵用道之啓堯民憂之道也

●武王在野召太公曰嗚呼高王極惠罪殺不辜年南太公名高
物予憂民如何太公曰王其修德以下賢惠民以觀
天道之不可先傷人道之不可先謀必見

●天殃又見人災乃可以謀必見其陽又見其陰乃知
其心必見其外又見其內乃知其意必見其謀又見
其親乃知其情行其道乃可致也從其門乃入可也

●立其禮乃可成也乘其強乃可勝也全勝不圖大兵
見政知其人意也

●其民山野外田野
國方民安內朝廷
百官正之言內外
見政知其人意也

昔子成周，漸於廢病，至有施舍，法於夫患民病，陳則有施惠，法皆所以救其病之

無字之夫勝人者，以甲兵甲以爲衛兵，以教養有司，乃可以勝，衛其地也。

同惡相助，同好相趨，故无甲兵而勝，无衝枘而攻，无

利天下者，天下皆利之，天下者，天下皆非之，一人之天下，乃天下之天下也。

取天下者，天下皆取之，取天下者，天下皆非之，一人之天下，乃天下之天下也。

而天下皆有分肉之心，若同舟而濟，則皆同其利，敗則皆同其害。

民者，取民者也，无取於國者，取國者也，无取於天下者，取天下者也。

无取天下者，天下利之，故道在不可見，又在不可聞，勝在不

可知，微哉！聖人惟動必有恩色，今彼殷商，其相

管勝穀，吾觀其政，邪曲勝直，吾觀其吏，暴虐殘賊，敗

法，刑上下不實，故七國之戰也，大明發而万物皆

照，大義發而万物皆利，大兵發而万物皆服，大哉聖

人之德，獨聞獨見，余哉！文啓發文啓國，以文啓道，以文啓周。

文啓發文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

其證明矣。直以文啓國，以文啓道，以文啓周。私云：此以文啓國，以文啓道，以文啓周。

得天下以无心故其所守者本元帝心之而主主明其所守之術故有聖人何守之問太公以言聖人所

守之道百善者百善處而百善之徒何有耕田合城井而飲

也善者吾善而不自何

人未得天下而求而無

心於致治之果何所

百善處耶惟元所忘

慮不有消之善任

天下自安矣

昔之康與及成湯

與商皆以漸得

而不自其利者

康有有之諸者

以七十里而與成湯

得之及其終皆

能天下朝廷侯則其所

以取國者天下而分

封賢人心為如何善

之已至至康與成之

推而至於三公天下

有其二又推而至於

天下之則其所取可知

天下既定之乃建今八百國則其分封可知矣

直云居者將之半將者居之周款其及安而求之也

直云居者將之半將者居之周款其及安而求之也

直云居者將之半將者居之周款其及安而求之也

直云居者將之半將者居之周款其及安而求之也

帝王問太公曰聖人何守太公曰何憂何蓄何物皆

得何蓄何憂何物皆道政之所施莫知其化之所

在莫知其移聖人守之而万物化何窮之有終而復

始優之游之展轉求之求而得之不可不既以兵

之不可不行既以行之勿復明之夫天地不自明故

能長生聖人不自明故名彰古之聖人聚人而為

家聚家而為國聚國而為天下分封賢人以為百國

命之日大紀陳其政教順其民俗群曲化直變於形

行連之老曰

容万国不通各采其所人後其上命之日大定嗚呼

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

万国不通

海軍天下本可以爭也我無向彼方推成敗者何決必之伐也文外必足成其兵也兵者用必以文為本

二則親其所愛以分其威威之所親幸臣既為其所親則必其君而用其民故居威勢以是而三人之心則一

文王問太公曰文伐之法奈何太公曰仇文伐有十

一曰日其所好以順其志彼將生驕必有奸反

二曰親其所愛以分其威一人

三曰日其所惡以怒其心

四曰日其所怨以激其怒

五曰日其所信以亂其謀

六曰日其所恃以去其勢

七曰日其所利以誘其心

八曰日其所害以去其志

九曰日其所忌以去其力

十曰日其所尊以去其威

十一曰日其所卑以去其勢

十二曰日其所怒以去其謀

十三曰日其所喜以去其力

十四曰日其所惡以去其威

十五曰日其所怨以去其勢

十六曰日其所信以去其謀

十七曰日其所恃以去其志

十八曰日其所害以去其力

十九曰日其所忌以去其威

二十曰日其所尊以去其勢

二十一曰日其所卑以去其威

七 其七 必有以感其上下誘之以利以錮其心使其君惟利是慕而元遠慮以列晉遺

其七 必有以感其上下誘之以利以錮其心使其君惟利是慕而元遠慮以列晉遺
八 其八 始貽其恃而圖其國恃者國之輔也今而貽以重利以誘其心資之以謀以役其心則彼必我信是謂重親也者吾能重彼之所親使及彼而親我也昔漢入境漢謂秦將者謂秦將乃遺以重寶秦將乃與連和而高祖始得入關矣
九 其九 則名之曰驕以修其志以名之曰大勢致其大志不飾聖人自所以誘其志必驕也示以大勢亦所以大勢亦所以示也

六 則內收其大臣之心而外致其間
彼大臣既心向我則必外而相
助於我而不為其君謀國比
國所以有之者以此亦越貽
吳本等語也

五 則內收其大臣之心而外致其間
後使又新忠也
合之句已嚴之國乃可謀六曰收其內問其外臣

四 則內收其大臣之心而外致其間
外相敵國內侵國鮮不七七曰欲錮其心必厚賂之

三 則內收其大臣之心而外致其間
收其左右忠愛隱示以利令之輕棄而蓄積空虛八

二 則內收其大臣之心而外致其間
日賂以重寶因與之謀而利之必信是謂重

一 則內收其大臣之心而外致其間
親之之積必為我用有國而外其地大敗九曰以

以名之無難其身示以大勢從之必信致其大志先

為之榮微飾聖人固力大偷十日下之必信以得其

情兼意慮更如與同生既以得之乃微收之時及將

至者天喪之十一曰塞之以道人臣无不重貴富

十二則驕其心而誘其臣以爲用塞道蓋人情元欲富夫惡孔各則因其所欲而

其其人時即當未
至極嚴用其
紂无道亡相隨而
遂天交使殷紂昏天下解湯武力如

海軍天下本可以爭也我無所敵彼亦推成敗者何決必伐之受外名足成其兵也其兵之用必以文為本
二則觀其所愛以分其威彼之所親重臣既為我所親則必與其君而用其民故居威勢以是而二人之心則一心為我所欲故西若是則國中必喜而忠臣亦為之為所以社稷危殆苟一日之必亡之二日親其所愛以分其威一人

文伐 二節 一曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
文王問太公曰文伐之法奈何太公曰仇之伐有十
一曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
二曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
三曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
四曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
五曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
六曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
七曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
八曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
九曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
十曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄

其五則因其君臣之情
彼大臣之助於我
國所必
吳本堂

直五
一曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
二曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
三曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
四曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
五曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
六曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
七曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
八曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
九曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄
十曰因其所好以順其志彼將生驕必有奸妄

其六則因其君臣之情
彼大臣之助於我
國所必
吳本堂

以名死難其身示以大勢從之必信致其大先
情兼意慮莫如與同生既以得之乃微收之時及將
至天喪之十一曰塞之以道人臣无不重貴富

其其人時常未
至極廢周出
結無道之臣相隨而
遂使殷紂昏天下版圖如

十一則驕其心而誘其臣以用塞之道蓋人情元欲富夫惡死各各則因其所欲而

收之以至於納勇智士皆法以誘其臣之德示大才又所以驕之而使不疑之乃微輸重宝收其豪傑刻彼之為臣
吾之利必假於我而後又當有子其利後以爲養士之資而外復收其士以有知謀者吾刻納之而使國其計有勇力者則納之
而使高其氣使彼各於所敵極其富貴而至於解其溢利彼之臣皆自生焉去以用吾得其人外吾之徒黨已備而可以圖彼之國矣
彼者我所欲塞矣塞在以其閉塞之而使不知其臣之爲己用國之志已固之有國而塞之則必壞矣安能復有
其國也子祖之於項羽遺情何以名蘇布等將增以拜韓信車馬車馬之徒皆各在焉
魏陳稀樊噲之徒皆在焉用子祖惟有以收楚之臣而用之則楚之徒黨已具矣其可以拒項羽而取天下之道
吾後將以大勢誘之刻彼心自安其策而不慮其他極若是而天時可知故又上塞天賦而下天下圖之
塞天下蓋天下去以道行之大而不亦不友之聖人惟是使而蓋之故曰偏後包舍而无所殊是以已容天下之
直也順者順天下人心而後道通乎此也此亦取各策以多者也

惡死子孫陰示大子而微輸重宝收其豪傑內積甚

厚而外為之陰內智士使國其計納勇士使高其氣

富貴甚足而常有解法徒黨已具是謂塞之有國而

塞安已自有國十有二曰養其死臣以迷之進美女淫

色以惑之送良大馬以勞之時与大勢以誘之上察

而與天下圖之十二節備乃成武度所謂上察天下

察地微已見乃伐之

順啓通道同仰之心以次道啓通心天道刻天下人啓取天下之道

文王問太公曰何如而可取天下太公曰大蓋天下

直也順者順天下人心而後道通乎此也此亦取各策以多者也

見此節不疑伐刻天常不三移之盟津會不期于八百國諸侯不期而會於牧野設三千心蓋天下
海軍利於公天怒而太公乃折者楚電亦必必誠以誠不可疑也天運時變不三移之武王惟備是六年所以已為天下
王而制天下政周家八百我之業其基其於然後能容天下信蓋天下然後巨保天下雅蓋天下
大德天下者天下之天下非一人之天下惟非一人之天下然後巨不失天下變而不疑則天運不三移時變不
改天下不三私一人而一人亦然後巨不失天下變而不疑則天運不三移時變不
不三求天下必其有以施而後天下以是報之者非其道必不三矣
其道必不三矣
情示于下則天下必以其情而舉之微
子微其情而示之微所隱之微見上之情
亦以其所以天下通之

然後能容天下信蓋天下然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

然後巨保天下雅蓋天下

直也三經者教政強難親散衆忍力不能而輕之也武王向三經故以名之

三疑論政強貴親散衆忍力不能而輕之也

武王向三經故以名之

以強攻之必有奇計
以益而後其強可
攻人軍師者手執其
其強而攻之則親
高親約必有貨賂
以誘之而後其親可
高也夫

既以謀而必設
激其中心以謀而
子謂本元好更而
偽意所以設敵
以處之利在親敵
本有貪心而後
以利金之彼既者
吾所設外必于吾爭
心所以起之

武王問太公曰予致三功有三疑怨力不巨攻強離

親敵衆為之奈何太公曰因之慎謀用財去攻強必

養之使強益之使張太強必折太張必缺攻強以強

離親以親敵衆以衆仇謀之道周密為室設之以交

玩之以利爭心必起敵離其親因其所愛與其通人

與之所教示之所利因以疎之令使得志彼貪利甚

喜遺疑乃止凡攻之道必先塞其明而後攻其強毀

其大隙民皆淫之以色陷之以利養之以味娛之以

樂既離其親必使遠民勿使知謀技而網之莫覺其

我謀謀焉其國降我人之謀謀焉其國降我人之謀

辨則出於聖人之心術聖人推是心術啓其智用是智以開啓其財所以理是財者本於聖人之心術也聖人惟以是心術而理財故用財而可以得人心財以致財而可以致財皆財之所由啓也人心其有不與乎人心既與則財之可以成王業蓋聖人之心蓋為我所為必與吾共與王於天下矣

魏武帝注云龍翰者夫龍潛則在淵騰則在天行雲施雨澤及万物故稱王有曰龍易曰龍是水畜雲是水氣故龍吟則雲出故曰雲龍龍變化之謂也

意然後可成惠施於民必无憂財民如牛馬教饑食

之隨而愛之心以啓智以啓財以啓德以啓

六韜卷才二終

六韜卷才三

六韜卷才四

六韜卷才五

六韜卷才六

六韜卷才七

六韜卷才八

官不徒設必取天
教而以為建官一
天有七十二位而特選
股肱羽翼七十二人
以充天道之昔周
世建官三百二十人
惟又三百二十人而
不知周之制取周天
三百六十之在漢世
實其量之倍有八人
其三十有八而不
知漢之制取二十八
宿之數蓋建官之
法非有所秘之必有
所取也

有之奈何太公曰凡奉兵師師以將為命今在通達一面之變化也

不守一術因能授職各取所長隨其變化以為綱紀

故將有股肱羽翼七十二人以應天道備教如法審

知命理殊吉異伎方更果笑武王曰請問其自太公

日版心一人主謂謀應率揆天消變總攬謀計保命

命氏謀士五人主圖安危慮未萌論行已明當討授

官位次嫌疑定可否天文三人主守星曆候風氣推

時日考符驗授失異知天心去就抗地利三人主三

軍行止形勢利害消息遠近陰陽水涸山阻不失地

直使審知命理今賦之於天理散之於地一物各具一太極者也

其安一理而古人行師臨陣亦要審知命理也

韓以三礼世道力得維全帝畏相謀士幾枕矛

直以同進德習所用之兵也

利兵法九人主論異同行更成敗簡練兵器刺拳

非法通糧四人主度飲食蓄積通糧道致五穀令三

軍不用之奮威四人主扶杖力論兵單風馳電擊不敵不知

知可用伏鼓旗三人主伏鼓旗明目諸符節認號

令副忽往來出入羞神股肱四人主任重持難儼海

禮治壁壘以備守禦通才三人主拾遺補過心偶實

推士三人通變

客論談語消德解難權士三人主行奇譎謀殊異

其人所謂識行元窮之變耳目七人主任來听言視變

覽四方之夏軍中之情似牙五人主揚威武激厲三

諸韻會肩薛韻古切說受權詐之果益日諺欺天下曰諸韻會作焉

伏ハモツ心也提伏
目身相如物矣
古委切說文責也
一日詐也增韻又
異也

●羽翼一信志也
遊士八人說士之故主
曰奸佞者以開國人
情使人心不疑其敵
之意以為同謀也

●術士一每言軍下
戰之狀使是成
其更故主為諷詐
依托鬼神以惑人心
故使將者國之至要之
將也

直心待將者詳其情
帥之賢不也武王
向師將故以名命

間謀 孫子用同為先知
者不可取於鬼神 不可信
也 禮求不可驗於度 不可以更教度
必取於人知敵之情者也 故用間有五 有因間 有反間 有死間 有生間 五間俱起 莫知其道 是謂神術 又君之室也 因間
者 因其鄉人而用之 內間者 因其官人而用之 反間者 因其敵間而用之 死間者 為誰受於外 令吾間知之 而傳於敵間也

生間者 及報也 故三軍之吏 莫厚於間 莫審於間 謀在傳其教 相十日說文 軍中及間也 諜詐為敵國之人 入其
軍中 伺候間隙 以反報其主 故所謂諜為伺而也 金瘡 亦也 曹參 七十二創 創字也 現
五其子 孫子 亦一 律 笑而 孫子 見 忠 以 嚴 子 羞 人 誰 不 志 而 嚴 子 又 治 軍 所 生 也

●仁而不忍 則不發 萬
其言故可也 而勇
者 夫 思 於 人 而 如 脂
也 殺 人 而 念 則 不
再 更 可 也 矣

●新破河 雲 凡 用 兵
天下 大 計 也 謀
又 次 可 亦 可 亦 居 之
●度 自 勇 敢 也
●度 自 勇 敢 也
●度 自 勇 敢 也

●度 自 勇 敢 也
●度 自 勇 敢 也
●度 自 勇 敢 也

軍使 冒 難 攻 銳 元 所 疑 慮 羽 翼 四 人 主 揚 名 譽 震 遠
方 搖 動 四 境 以 弱 敵 心 遊 士 八 人 主 伺 其 機 變 開 闔
人 情 觀 敵 之 意 以 為 間 謀 術 士 二 人 主 寫 諷 詐 依 託
鬼 神 以 惑 衆 心 方 士 二 人 主 合 百 藥 以 治 金 瘡 以 痊
百 病 法 筮 二 人 主 計 營 三 軍 營 壘 糧 食 財 用 出 入
論 將 大 將 命 五 枝 勇 智 仁 信 忠 善 勇 論 論
大 將 命 五 枝 勇 智 仁 信 忠 善 勇 論 論

武王 向 太 公 曰 論 將 之 道 奈 何 太 公 曰 將 有 五 枝 十
過 武 王 曰 敢 問 其 目 太 公 曰 所 謂 五 枝 者 勇 智 仁 信
忠 也 勇 則 不 可 犯 智 則 不 可 亂 仁 則 愛 人 信 則 不 欺
忠 也 勇 則 不 可 犯 智 則 不 可 亂 仁 則 愛 人 信 則 不 欺
忠 也 勇 則 不 可 犯 智 則 不 可 亂 仁 則 愛 人 信 則 不 欺

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

忠 則 无 二 心 所 謂 十 過 者 有 勇 而 輕 死 者 有 急 而 心
速 者 有 貪 而 好 利 者 有 仁 而 不 忍 人 者 有 智 而 心 怯
者 有 信 而 喜 信 人 者 有 廉 潔 而 不 愛 人 者 有 智 而 心
緩 者 有 財 殺 而 自 用 者 有 懦 而 憂 任 人 者 勇 而 輕 死
者 可 暴 也 急 而 心 速 者 可 以 地 貪 而 好 利 者 可 遺 也
仁 而 不 忍 人 者 可 勞 也 智 而 怯 者 可 窘 也 信 而 喜 信
入 者 可 誑 也 廉 潔 而 不 愛 人 者 可 侮 也 智 而 心 緩 者
可 喜 也 財 殺 而 自 用 者 可 莫 也 懦 而 喜 任 人 者 可 欺
也 故 兵 者 國 之 大 寶 也 存 亡 之 道 全 在 於 將 也 者 國

兵不而勝亦不而敗
而後可也若河水之
退舍而後可也
有勝敗有奇兵出
踰境元十日之期
必有勝負此言一
向成敗任其自
行於久而十日之
期已後則必成
軍殺將蓋以勝負
成敗可以見也
固不且為之
見也山清一
季而不知其子
以王將四三
不知其敗
有之大觀於
而有三十
年其化年

選將者必選士之能者而任之為將蓋取古之義以名命

之輔也先王之所重也故置將不可不察也故曰兵
不而勝亦不而敗兵出踰境期不十日不存亡國必
有破軍殺將武王曰善哉蓋以其言盡理故不得不善

選將又選少選之間各

武王問太公曰王者舉兵欲簡練英雄知士之高下

為之奈何太公曰夫士外自來與中情相應者十五

有敵而不肖者有溫良而為盜者有自恭敬而心慢

者有外廉謹而內元至誠者有精而元情者有湛

而元誠者有好謀而不決者如果敢而不能

而元誠者有好謀而不決者如果敢而不能

恍惚春至云如有如亡

存子日神心恍惚
後果云弟十日
之夕之者必有
少元不多明也

者有信不信者有悅不信者有悅不信者有悅不信者

有切效者外勇而內怯者有君而反易者有嗚而

而反靜者有勢虛形者而外出元所不至元所不

遂者天下所賤聖人貴非凡夫莫知非有光明不見

其際此士之外自來與中情相應者也武王曰何以

知之太公曰知之有八徵一曰問之以言以觀其辭

二曰窮之以辭以觀其變三曰反之間諜以觀其誠

四曰明白顯問以觀其德五曰使之以賊以觀其廉

六曰試之以色以觀其貞七曰告之以難以觀其勇

八曰試之以色以觀其貞七曰告之以難以觀其勇

向以言以觀其辭
蓋知其所以
動向中而後形
言向以言以觀其
有所忘一辭
窮以辭以窮其
窮以辭以窮其
其其昏而後款
兵以款窮以辭

蓋人惟所守子正刻必不為色所惑故以色試之可以觀其貞

非礼无以... 八日解之以酒以觀其態八徵皆備則買不肖別美

立將 前送將封而... 武王問太公曰立將之道奈何太公曰凡國有難君

避正殿召將而詔之曰社稷安危一在將軍今其國

不臣願將軍師仲應之將既受命乃余大史卜爾于

日之大廟鑽龜龜上吉日以獲斧鉞若入廟門西面

而立將入廟門北面而立君親操鉞持盾持其柄

曰從此上至天者將軍制之復操斧持柄授將其刃

曰從此下至淵者將軍制之見其虛則進見其實則

而斧小

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

敵有油斷

敵有大備

古者立將之除推轂... 則軍回之治未嘗... 不也而將復令... 者惟其制手也... 心不可以交君言... 以忠邪國无有二... 敵言以智夫也

古者立將之除推轂... 則軍回之治未嘗... 不也而將復令... 者惟其制手也... 心不可以交君言... 以忠邪國无有二... 敵言以智夫也

勇則效其力

故為之討其氣

奮其力之在

若馳騁焉

將吳起嘗與夫人

頌之於廟

得本公告廟之禮

也

則得用人伐商而

年豐之意也

人年以伐商之說

證之

非必有推欲知其推

之所則必求其所

以為推者成也

禁止而行令也

所以為推也

能誅大則可以為威

賞之所以為明者

非在教賞而已

不可以為明蓋人莫不憚

尊貴而勿心做賊故於尊貴刑有所

不而於做賊者賞有所不及非所以為威明也

直之將威者節節之不

武王向將以威故以多

武王曰善哉

將威

武王問太公曰將何為威何以為明何以為禁止而

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

司馬相如漢少

漢書音義云

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

勇為之謀

智者為之謀

言不自肆其欲而已止

炊者皆熟將乃就食軍不舉火將亦不舉名曰止炊

將不身服止款无以知士卒飢飽將與士卒共寒

暑勞苦飢飽故三軍之衆聞鼓則喜聞金則怒

高城深池矢石繁下士卒爭先登白刃始合士卒爭先

赴士非好死而卒傷也為其將知寒暑飢飽之審而

見勞苦明也

武王問太公曰引兵深入諸侯之地三軍卒有緩急

或利或害將以近通遠從中應外以給三軍之用

符者... 與郡守各分一半右留京師左以與之

或說云一尺大符符以十寸代一尺九寸檢符以付九寸

七寸却敵之符七寸皆勝克之付長也六寸警眾守之付六寸

四寸敗軍亡將之符四寸皆軍亡將之符長九寸降城得邑之

符長八寸却敵報遠之符長七寸警眾守之符長

六寸請糧益兵之符長五寸敗軍亡將之符長四寸

失利七士之符長三寸請奉使行符秘首苗若符更

閉泄告者皆諫之八符者主將秘閉所以隱通言語

不泄中外相知之術敵無聖智虞之已識武王曰善哉

武王問太公曰引兵深入諸侯之地主將欲合兵

知也

昔楚子巡城而三軍之士皆如一統...

天下所恃以為至信者莫如符節...

直云後符者勝為符節以通主將之意...

符者... 與郡守各分一半...

或說云一尺大符符以十寸代一尺九寸...

七寸却敵之符七寸皆勝克之付長也...

四寸敗軍亡將之符四寸皆軍亡將之符...

符長八寸却敵報遠之符長七寸警眾守之...

六寸請糧益兵之符長五寸敗軍亡將之符...

失利七士之符長三寸請奉使行符秘首苗若...

閉泄告者皆諫之八符者主將秘閉所以隱通...

不泄中外相知之術敵無聖智虞之已識武王...

武王問太公曰引兵深入諸侯之地主將欲合...

知也

主謂相去遠遠言語不互相通為之少有其道太公謂陰文本慮非符所已必各而後乃為者
以各遠一將之欲通於主則必以各官主其為各皆合而再者言分一幅而為三部
惟分而三故三發而一
一知三發而一知者言
人持一分合三人之所
持夫而用之故三發而
一知三人所操各不相知
情知情則其知則
則以為好
●再發云用兵而必言
是不足不忌密托心故
言則在於未之
奇更至則不語矣用
兵則必新於方寸之
間豈復多言耶
●西舍於東陽是春
於未更而語之及
更至則不語矣
●奇正者君子之戰
者以正合以奇勝注
云正者當敵奇者從
傍收不備心
●君子曰先進而戰
東

武王問太公曰攻伐之道奈何太公曰資同敵家之
動變生兩陣之間奇正發於無窮之源故至言不語
軍勢
孫子曰先進而戰
●孫子曰凡戰者以正合以奇勝問則頓見則頓
一者制之所發於先窮之源言何於不可得而窮

直曰軍勢者行軍破敵之勢也孫子論兵勢以如轉圈石於千仞之山喻其險而不可過
勢以疾雷不及掩耳迅電不及矚目喻其速而不可禦其美義同也
大公論軍

言有同土有同平有同軌
同土者言名相於一國
同平者言相於一
國之國轉者言相
於一國之行國平必
其智中於一國今知
與眾同者得謂之同
乎得謂之同工不也
言蓋行善制勝者不
古眾知之
●惟陰陽之道而從其惟
者惟言必有教
●通推之則沙以從其
而為之通天地盈縮
同以而善下蓋消息盈
虛大數當於主人視是
以為常物在死生回天
社而舒以秋冬而為怪
因是有死生一舒
●兵之在也亦猶是也
●見敵而後戰是理戰也
●當眾必敗矣

無窮之變固不測之利其更煩多符不能明相去者
遠言語不通為之奈何太公曰諸有陰文本慮當用
各不用符主以各遺將以各官主各皆一合而每
離三發而一知再離者分各為三部三發而一智者
言三人之操一分相參而不相知情也此謂陰各敵
至聖智莫之已識武王曰善哉
軍勢
●孫子曰凡戰者以正合以奇勝問則頓見則頓
一者制之所發於先窮之源言何於不可得而窮

用兵不言且更之至者其言不足聽也兵之用者其
狀不足見也倏而往忽而來已獨專而不制者兵也
走兵聞則見則困知則危故善戰者不待
張軍善除患者理於未生善勝敵者勝於無敵上戰
無戰故爭勝自及之前者非良將也設備於已失
右者非上聖也智與眾同非國師也技與眾同非
國士也莫大於少克用莫大於玄默動莫神於不
意謀莫善不識走先勝者先見弱於敵而後戰者也
故交事而功倍焉聖人微於天地動執其紀備陰

多者一七十二候祥之自生風解至版堅

獨勝楚國之數三行二
運以其不折心孤之為
物一步一止此則有所
感不折者其為空
大故用兵之空猶勝
為大者方楚在更神
夫亦足長神右足
長

夫利後則元以制
久而及人所制故
越惟不毛取之乃使
越王日而國其至於
吳王自故非失利
後取而及夫其其
夫將有所不言而守
守之不以心故然其
野金不言所守而
守自固有所不見
而視者明也言非
相以心故也

出甲深兵縱卒
行者所以誘敵也
故可以為變法有所
謂半進半退者誘
縱卒一以行是乃
之無統而以誘
趨以使人三千進退以
誘其非所以為變
破精微言用兵之妙
之極至妙妙用兵而
之有以勝之
四合五散于合兵以擊
之也所以收于一而破
言無陣不破
諸葛孔明八陣變
鮮能戒長地應月錄
大方曰術執人行
切實於之切地不
平也

自古奇兵者出高取勝應變無窮太公因武王之間而言其法如此故以名篇

陽之道而從其假當天地盈縮同以為常物有死生因

天地之故故曰未見形而戰金衆必敗善戰者居之不

撓見勝則起不勝則止故曰無恐懼无猶豫用兵之

害猶勝最大三軍之災莫過孤疑善者見利不失遇

時不疑失利後反受其殃故智者從之而不執巧

者一決而不猶豫是以疾雷不及掩耳迅雷不及

目趨之若驚用之若狂當之者破逆之者亡孰已禦

夫將有所不言而守者神也有所不見而視者明

也故知神明之道者野無衝敵對无立國武王曰善

我之敵對之兵下之心下有對之兵下之心下有對之兵下之心

哉奇兵

兵有本有末其所以制敵者本也無以制之而必破之也

武王問太公曰凡用兵之道大要何如太公曰古之

善戰者非已戰於天上非已戰於地下其成也敗皆

由神勢得之者昌失之者亡夫兩陣之間出甲陳兵

縱卒亂行者所以為變也深中蒞敵者所以遁也

谷險阻者所以止車御不驕也隘塞山林者所以少擊

衆也劫沃窳者所以匿其形也清明无隱者所以

戰勇力也疾如流矢擊如奔電抗者所以破精微也說

伏設奇遠張誑誘者所以破軍擒將也甲分五到者

直武成伐章一所以為變詐也

偽稱敵使所以絕糧道也蓋以不疑而後可以絕之也
 子者手冠持曰杖自稱曹公都督想是圍至所
 足可責任人其當是豈不足以其通乎
 每長長矣遠候者謹中候心是疾
 謂道者疾至而急退
 心若是則可以謹守
 可以致敵
 敵行權置則則
 噪以奪敵心
 魏大武曰孔而征
 魏連入京曰天而甚
 以克定厥世曰而
 以伐人也
 孫子言林木蔽用利
 為伏奸之所以理其
 往來之可知矣

以擊圓破方也日其驚駭者所以一擊而十也日其防
 倭莫舍者所以十戰百也奇技者所以越深水渡江河也
 強弩長兵者所以喻水戰也長策遠候暴疾謂道者
 所以降城服邑也鼓行譁罵者所以行奇謀也大凡
 甚兩者所以搏前擒后也偽稱敵使者所以絕糧道
 也謂号令敵同服者所以備走也戰必以義者
 所以勸眾勝敵也爵重賞者所以勸用命也嚴刑罰者
 所以進也一喜一怒一與一奪一文一武一徐一疾者
 所以調和三軍制一臣下也然高敵所以致言

起守而沙秦無不
 敢東向事牧守八門
 自奴不敢進也
 將則兵強國昌
 蓋將者人司命
 司命者以命死
 生係於將之將之用
 兵而當則民生不當
 則民死故為人司命
 十二律者二越新金
 平調勝純竟以雙
 調龍鐘支涉去鳥
 鐘盤涉神仙凡音
 梅用和太下我大
 平無律以竹軍志
 大月馬之我若而
 則尤無律右軍鈔以
 先執系款于社是則
 律者之用言今之所
 凡不競多死是
 則律者之用必有其
 為甚妙其文既妙則

守也保險阻者所以為固也山林茂穢者所以默往
 來也深溝高壘積糧多者所以持久也故曰不知戰
 攻之策不可以語敵不忌分移不可以語勇不通治
 亂不可以語變故曰將不仁則三軍不親將不勇則
 三軍不銳將不智則三軍大疑將不明則三軍大頓
 將不精微則三軍失其統將不常戒則三軍失其備
 將不強力則三軍失其職故將者人之司令三軍之
 領治之俱亂得賢將者兵強國昌不得賢將者
 兵弱國亡武王曰善哉

方曰季之贊心
宮 越中火主君中
成已歸土月受太
日身

商 庚辛 秋白肺
甲申 肝主青木
平調金臣事

徵 庚辛 秋白肺
甲申 肝主青木
平調金臣事

羽 庚辛 秋白肺
甲申 肝主青木
平調金臣事

甲辰 甲午 甲申 甲戌
甲子 甲寅 甲辰 甲午

虛無之情言其虛
元可執故其情虛
是情而可以制人

直云五音者宮商角徵羽各有所應之隨其所應而制之亦可以佐吾之勝耳

五音

全木水火土

武王問太公曰律音之志何以知三軍之消息勝負

次乎太公曰深哉王之問也是律管十二其要有

五音宮商角徵羽此其正志也方代不易五行之神

道之常也何以知敵金木水火土各以其勝攻之

者三皇之世虛無之情以制對強元有文字皆由五

行七音之道天地自然六甲之分微妙之神也其法

以天清淨无陰之凡兩夜半遣輕騎往至敵人之壘

去九百步外偏持律管當耳大呼致之有志應管其

聲即見其情而可以制人及敵金剛強有不己自持者其為用非速可拘故元有文字契大槩本之五行而推之世巧

所引以為非作者蓋
是音五徵妙而有志
色之符可以為外假

為顯五音為隱即
亦何以知人即
之敵入致人致動

也故問抱鼓之音
則知其為音之外
假徵心故見火光

則知其為音之外
假徵心故見火光
則知其為音之外

直云兵徵者兵家
勝負之徵兆也或
凶或吉曰自先見

正者為將者不可
不知故武王以
為問而太公答之也

來甚徵角志應管當以白虎徵志應管當以玄武商

志應管當以朱雀羽志應管當以句陳五音志盡不

應者宮也當以青龍也五行之符伏勝之徵成敗之

杭武王曰善哉太公曰徵妙之音皆有外假武王曰

何以知之太公曰敵人驚動則聽之聞抱鼓之音者

角也見火光者徵也聞金鐵牙戟之音者商也聞人

嗚呼之音者羽也寂漠无聞宮也此五者志色之符

也兵徵者是不戰先勝負可知也子子不可不知也

武王問太公曰我欲未戰先知敵人之強弱豫見勝

音律以丁勝負之夫之鶴今日既明日進一如世之徵之也
一陽六之呂之陰之六合十二律之第一甲也

武王問太公曰深哉王之問也是律管十二其要有

五音宮商角徵羽此其正志也方代不易五行之神

道之常也何以知敵金木水火土各以其勝攻之

者三皇之世虛無之情以制對強元有文字皆由五

行七音之道天地自然六甲之分微妙之神也其法

以天清淨无陰之凡兩夜半遣輕騎往至敵人之壘

去九百步外偏持律管當耳大呼致之有志應管其

聲即見其情而可以制人及敵金剛強有不己自持者其為用非速可拘故元有文字契大槩本之五行而推之世巧

直云五音者宮商角徵羽各有所應之隨其所應而制之亦可以佐吾之勝耳

來甚徵角志應管當以白虎徵志應管當以玄武商

志應管當以朱雀羽志應管當以句陳五音志盡不

應者宮也當以青龍也五行之符伏勝之徵成敗之

杭武王曰善哉太公曰徵妙之音皆有外假武王曰

何以知之太公曰敵人驚動則聽之聞抱鼓之音者

角也見火光者徵也聞金鐵牙戟之音者商也聞人

嗚呼之音者羽也寂漠无聞宮也此五者志色之符

也兵徵者是不戰先勝負可知也子子不可不知也

武王問太公曰我欲未戰先知敵人之強弱豫見勝

武王問太公曰我欲未戰先知敵人之強弱豫見勝

武王問太公曰我欲未戰先知敵人之強弱豫見勝

自今凡無切
抱擊鼓杖亦
作持
抱擊鼓杖亦
作持
抱擊鼓杖亦
作持
抱擊鼓杖亦
作持

士卒畏法則其令嚴效其將令則其推重相喜以破敵則青少戰之心

負之微為之奈何太公曰勝負之微精神先見明將

察其效在人謹候敵人出入進退察其動靜言語

妖祥士卒所告凡三軍說快士卒畏法效其將令相

喜以破敵相陳以勇猛相賢以威武相強微也三軍

數效士卒不奇相恐以敵強相涉以不利耳目相漏

妖言不止眾占相惑不畏法禮不重其將此弱微也

三軍奇效正陳勢已固深溝高壘又有大凡甚兩之利

三軍先故旌旗前指金鈇之志揚以清擊鼓之志克

以鳴此得神明之助大勝之微也行陣不同旌旗亂

直旌旗前向而折

自齊呂春秋帝學全

人作擊鼓之樂私記

日今指擊鼓之樂私記

直旌旗前向而折

自齊呂春秋帝學全

人作擊鼓之樂私記

日今指擊鼓之樂私記

直旌旗前向而折

自齊呂春秋帝學全

人作擊鼓之樂私記

日今指擊鼓之樂私記

直旌旗前向而折

自齊呂春秋帝學全

人作擊鼓之樂私記

敵

精神先見

明將

其動靜

言語

其將令

相

微也

三軍

相涉

以不利

耳目

相漏

妖言

不止

眾占

相惑

不畏

法禮

不重

其將

此弱

微也

三軍

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

其氣勢

直云農器者以農器喻用兵之器也天下安定則武備不備太公以農器即兵器兵變即農文此亦

農哭口無兵一在人支之人支民家之天下有道則收農具無道則藏農具

武王問太公曰天下安之國家无交戰攻之是可不

攻乎守御之備可无設乎太公曰戰攻乎御之具

盡在於人交未和者其行馬蒞鞠令也馬牛車輿者其

言聖敵槽也鋤耨之具其矛戟也襄薛莖笠楮其甲

曹干楮也鑼鉦斧鋸杵臼其攻城器也牛馬可以轉

輸糧用也雞犬伺候也婦人織紵其旌旗也丈夫平

壤其攻城也春鋏中棘其戰車騎也夏耨田疇其戰

步兵也秋刈禾薪其糧食儲備也冬實倉庫其堅守

自今樣龜五切說文大信也尚各血脈濡釋又城上自不為屋

自今味自約云矣切礼記學記大信不約注於要切周礼司約注約言約約東約者於好也又過自

東春過切也

也田里相伍其約束符信也里有吏官有長其耨帥

也里有周垣不得相過其墜分也輸粟收勿原庫

也春秋治城郭修海渠其漸土聖也故用兵之具

在於人交也善為國者取於人交故必使遂其亦畜

闢其田野安其地所丈夫治田有畝數婦人織紵有

尺度是富國強兵之道也武王曰善哉

上農支百畝中農七十畝下農五十畝作心

自今法

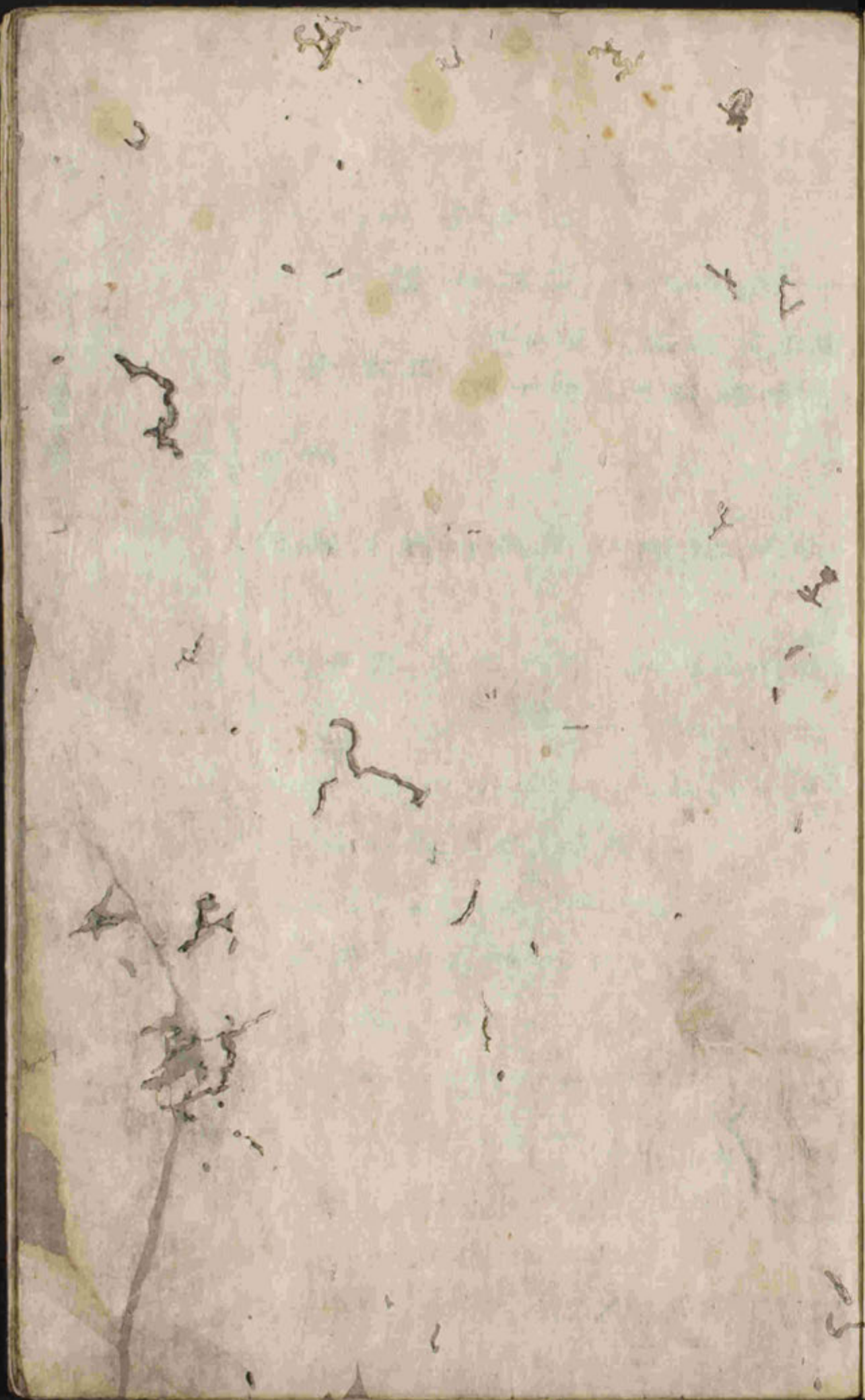
自今法

自今法

入為妻...
 同...
 年...
 ...
 ...
 ...
 ...

三張

15



呂
望
著
六
韜
卷

坤

132X
32/3
2

天日新開... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

虎

軍

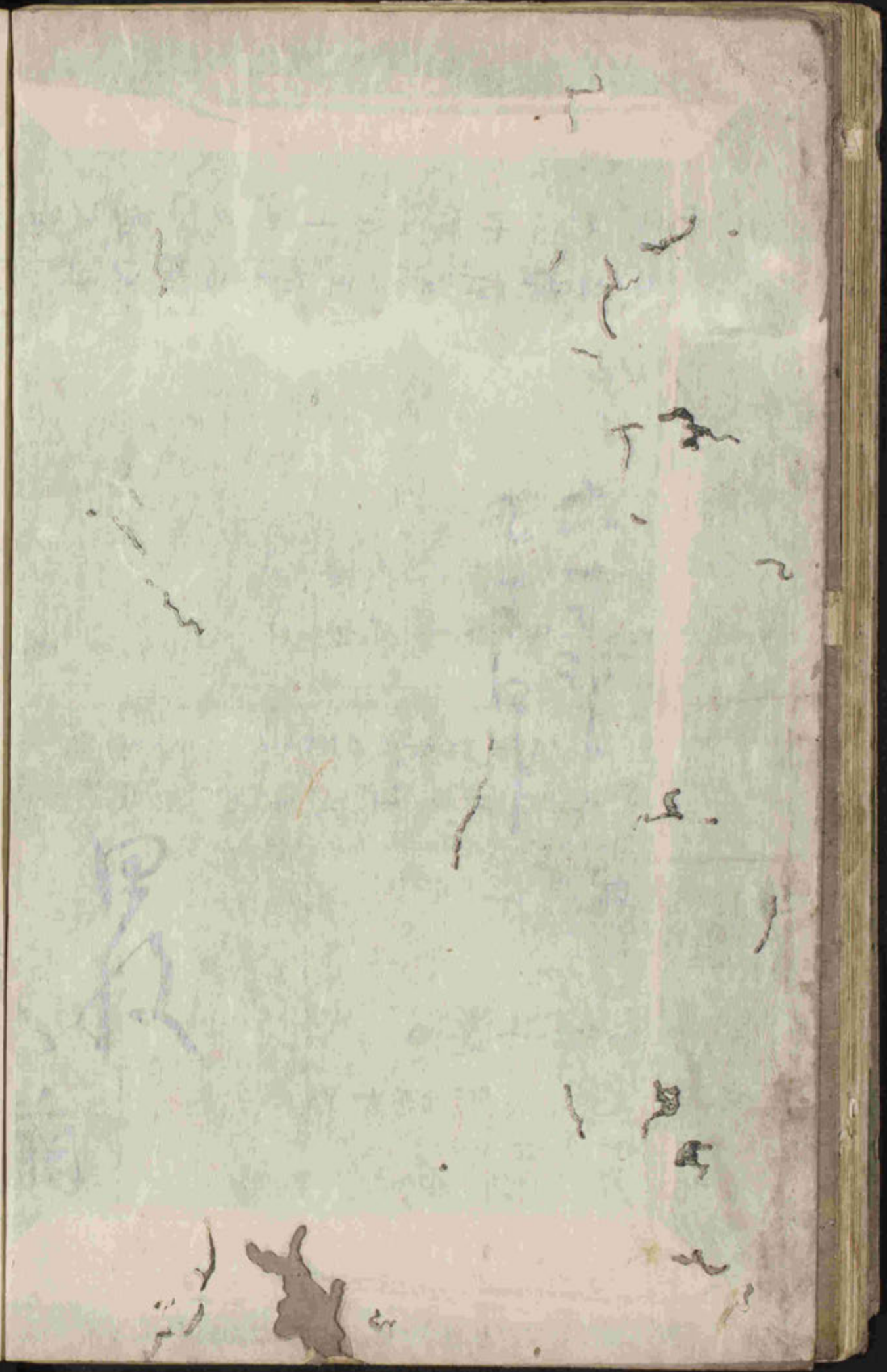
此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...



大白陰至發如... 言其威也

自前虎夜裡一日放光... 直軍用者軍之

我武布位云云... 小韜卷第四

虎韜

軍用

武王問太公曰王者... 攻守之具

與寡豈有法乎... 攻守之具

各有科呂以兵... 攻守之具

用兵之大教... 攻守之具

乘材士強弩... 攻守之具

車輪車上立... 攻守之具

大樽牙戟... 攻守之具

戰六尺可在... 攻守之具

孫子曰凡用兵... 戰六尺可在

戰六尺可在... 攻守之具

五尺車輪後車連弩自副陷堅陣敗強敵提我小槽

杖番一百四十具後車連弩自副以康車陷堅陣

敗強敵杖番三十六乘材士強弩矛

戰為我飛鳥電自副飛鳥赤莖白羽以鋼為首電

數青莖赤羽以鐵為首登則以錦縞長六尺度六寸

為光耀夜則以白縞長六尺度六寸為流星陷堅陣

敗步騎大杖番衝車三十六乘蟪蛄武士共載可以

縱擊橫可以敗敵輜車騎寇一名電車兵法謂之電

擊陷堅陣敗步騎寇夜來前矛戟杖番輕車一百六

十乘蟪蛄武士五人共載兵法謂之電擊陷堅陣敗

步騎方首鐵格維那重十二斤柄長五尺以上十二

百枚一名天格大柯斧刃長八寸重八斤柄長五尺

以上十二百枚一名天鐵方首鐵鎚重八斤柄長五

尺以上十二百枚一名天鎚敗步騎群寇也鈞長八

寸鈞芒長四寸柄長六尺以上十二百枚以投其衆

三軍拒守木蟪蛄銀刃杖番廣二丈百二十具十名

行馬手易地以步兵破車騎沐蒺藜去地二尺厚寸

百二十具敗步騎要寇寇走十軸旋短衝矛戟杖

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

一八諸之寺之鬼之是抄說

杖番一百四十具後車連弩自副以康車陷堅陣

戰為我飛鳥電自副飛鳥赤莖白羽以鋼為首電

為光耀夜則以白縞長六尺度六寸為流星陷堅陣

敗步騎大杖番衝車三十六乘蟪蛄武士共載可以

縱擊橫可以敗敵輜車騎寇一名電車兵法謂之電

擊陷堅陣敗步騎寇夜來前矛戟杖番輕車一百六

十乘蟪蛄武士五人共載兵法謂之電擊陷堅陣敗

步騎方首鐵格維那重十二斤柄長五尺以上十二

百枚一名天格大柯斧刃長八寸重八斤柄長五尺

以上十二百枚一名天鐵方首鐵鎚重八斤柄長五

尺以上十二百枚一名天鎚敗步騎群寇也鈞長八

寸鈞芒長四寸柄長六尺以上十二百枚以投其衆

三軍拒守木蟪蛄銀刃杖番廣二丈百二十具十名

行馬手易地以步兵破車騎沐蒺藜去地二尺厚寸

百二十具敗步騎要寇寇走十軸旋短衝矛戟杖

五尺車輪後車連弩自副陷堅陣敗強敵提我小槽

杖番一百四十具後車連弩自副以康車陷堅陣

敗強敵杖番三十六乘材士強弩矛

戰為我飛鳥電自副飛鳥赤莖白羽以鋼為首電

數青莖赤羽以鐵為首登則以錦縞長六尺度六寸

為光耀夜則以白縞長六尺度六寸為流星陷堅陣

敗步騎大杖番衝車三十六乘蟪蛄武士共載可以

縱擊橫可以敗敵輜車騎寇一名電車兵法謂之電

擊陷堅陣敗步騎寇夜來前矛戟杖番輕車一百六

十乘蟪蛄武士五人共載兵法謂之電擊陷堅陣敗

步騎方首鐵格維那重十二斤柄長五尺以上十二

百枚一名天格大柯斧刃長八寸重八斤柄長五尺

以上十二百枚一名天鐵方首鐵鎚重八斤柄長五

尺以上十二百枚一名天鎚敗步騎群寇也鈞長八

寸鈞芒長四寸柄長六尺以上十二百枚以投其衆

三軍拒守木蟪蛄銀刃杖番廣二丈百二十具十名

行馬手易地以步兵破車騎沐蒺藜去地二尺厚寸

百二十具敗步騎要寇寇走十軸旋短衝矛戟杖

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

五尺車輪後車連弩自副陷堅陣敗強敵提我小槽

杖番一百四十具後車連弩自副以康車陷堅陣

敗強敵杖番三十六乘材士強弩矛

戰為我飛鳥電自副飛鳥赤莖白羽以鋼為首電

數青莖赤羽以鐵為首登則以錦縞長六尺度六寸

為光耀夜則以白縞長六尺度六寸為流星陷堅陣

敗步騎大杖番衝車三十六乘蟪蛄武士共載可以

縱擊橫可以敗敵輜車騎寇一名電車兵法謂之電

擊陷堅陣敗步騎寇夜來前矛戟杖番輕車一百六

十乘蟪蛄武士五人共載兵法謂之電擊陷堅陣敗

步騎方首鐵格維那重十二斤柄長五尺以上十二

百枚一名天格大柯斧刃長八寸重八斤柄長五尺

以上十二百枚一名天鐵方首鐵鎚重八斤柄長五

尺以上十二百枚一名天鎚敗步騎群寇也鈞長八

寸鈞芒長四寸柄長六尺以上十二百枚以投其衆

三軍拒守木蟪蛄銀刃杖番廣二丈百二十具十名

行馬手易地以步兵破車騎沐蒺藜去地二尺厚寸

百二十具敗步騎要寇寇走十軸旋短衝矛戟杖

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

敵有利窮我取此兵具之也

（笑）
乘車與出戰海軍用兵五十有二戰而即位出屯古天子之九子三朝記云出屯古天子之九子三朝記云
殺海軍野又山名
胡皇海軍取
海軍花白草新斬
曾以殺出元丹處運
映祠前水疑是此河血
尚阮

昏百二十具黃帝取以敗出屯氏敗步騎要穿冠遮

走步狹路微往張鉄蒺藜芒高四寸長八寸長八尺

以上千二百具敗步騎突暝未前促戰白刃接張地

羅鋪西鐵蒺藜冬連徹女芒回相去二寸方二千具

野草中方胸鋭矛千二百具張鋭矛法高一尺五

寸敗步騎要穿冠遮走步狹路微往地陷鉄械鎖冬

連百二十具敗步騎要穿冠遮走步罌門拒守矛戟

小槽十二具後車連弩自副三軍拒守天羅虎落鎖

連一部度一丈五尺高八尺五百二十具虎落鈕及

一問度一丈五尺長二丈以上着轉閘棘斬八具以

環利通索張渡大水江度一丈五尺長二丈以

上八具以環利通索張天浮鉄蟠娘短四分外徑

四尺以上環能自副三十二具天浮張江渡大

海鏡天潢一名天船山林野居結鹿房紫營環利

鉄鎖長二丈以上千二百枚環利大通索丈四寸長

四丈以上六百枚環利中通索丈二寸長四丈以上

二百枚環利小徽螺長二丈以上萬二千枚天雨飛

衛赤繩

衛赤繩

衛赤繩

虎落漢書鼎錯傳為中周虎落部虎曰虎落者外者也若令特竹虎落林曰作虎落於塞要下以沙布其外且視
其跡勿知也必未入之曰天田師古曰藉說非也虎落者以竹篾相連遮落之也楊雄校獵賦虎路三出交番灼日路
三日落服度曰以竹虎落此山之即古曰落索也以此繩周繞之也落之也古離落之也選注良曰虎落竹竹為藩落
海山所設時時會及獲骨虎落劍及技足月以幻行馬入神也
虎落大不善也方是
足不相也李將軍
傳虎落三注為路
虎落虎之毛力也
イシル又飾益也
一說虎落モカリ之注音列傳十九鼎錯注云注虎一外藩下云年後打連一遮物ト云
陰阻垣三三寸高之器也

其跡勿知也必未入之曰天田師古曰藉說非也虎落者以竹篾相連遮落之也楊雄校獵賦虎路三出交番灼日路
三日落服度曰以竹虎落此山之即古曰落索也以此繩周繞之也落之也古離落之也選注良曰虎落竹竹為藩落
海山所設時時會及獲骨虎落劍及技足月以幻行馬入神也
虎落大不善也方是
足不相也李將軍
傳虎落三注為路
虎落虎之毛力也
イシル又飾益也
一說虎落モカリ之注音列傳十九鼎錯注云注虎一外藩下云年後打連一遮物ト云
陰阻垣三三寸高之器也

其在軍用有也橋江天厚天佐也橋所乃海壘也江所以後大中天厚旅也江所以大極行軍除益用已先其則
退大水度壘深坑必以也江情固天佐而倚也蓋是也地險所不守能守之其人必寡故也而倚

蓋惟死戰則可以死之
敵人致地也則可以死之
以必死故燒糧車焚
糧倉造人鬼國則
生不勇則死也
必死戰者王領惠
至四橋之舟船也
諸艦志逐風去德志
托士卒曰去家万里船
乘衣糧並已逐風唯
宜死戰可立大功誠有
乃於此

用智於未奔沉之前
復至而後求乘以城
不取取乎武王乘以每
復以河攻城固邑列有
輜輜以衝車各攻
城之是也孫子曰伏機
搃則是為之攻城是
之視城中則有之計也
據首望敵之是也孫子有備蓋械之說也子有登車車之車則是器之視城中之是也三軍行止則有武衝大橋亦后
拒守在方險法則以武衝為前大橋為商有必出法則以武衝拒前遠大橋備左右以列為行止之用也明矣

直軍略者有行軍
謀思也謀思不可不以行軍也

武王問太公曰引兵深入諸侯之地遇深谿大谷險
阻之水吾三軍未得畢濟而天暴風浪水大至后不
得屬於前死有舟車之備又无水草之資吾欲畢濟
三軍不替而為之奈何太公曰凡帥師將與慮不先
設器械不備教不素信士卒不習若此不可以為王
者之兵也凡三軍有大變莫不習用器械攻城圍邑
則有輜輜以衝視城中則有雲梯也捷三軍行止則
有武衝大橋前後拒守絕道遠街則有材士強弩衝
其兩旁設營壘則有天羅鹿角竹馬蒺藜登則登
具其在軍用有也橋江天厚天佐也橋所乃海壘也江所以後大中天厚旅也江所以大極行軍除益用已先其則

我后為之奈何太公曰大水卒漸深坑敵人堅不守
或已守其卒必寡若此者必也江情固天佐而倚也蓋是也地險所不守能守之其人必寡故也而倚

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先
敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

敵軍勇力材士後我取指
敵敵陣皆致其死先

孫子曰我可以往彼
可以未白通是則與
敵以境故可以往
未之地是乃通地也
兩陣皆固未敢先奔
我後往而竟去之而
又慮彼之未以我王
所以要之而本云先
告以自臨之策後告
以攻竟之法各三三
處以三軍各分三處

樹遠望立五色旗下上旌夜則設高雲火百炬下擊雷鼓振下響
鈸吹鳴鈸越溝壘則有胡人飛橋胡人柵閘胡人輾軋鉏鋤胡人涸水
則有天淡胡人江逆胡人波上胡人隊則有胡人浮海胡人絕江胡人三軍胡人用備

主將何憂

臨境

武王問太公曰吾與敵人臨境相拒彼以未我

以往陣皆堅固莫敢先奔我欲往而竟去之彼亦未

為之奈何太公曰分三處三軍名謀令我前軍深溝壘下埋而

急出列旌旗擊擊鼓下完為守備令我後軍多積糧下糧食

急使敵人知我意發我銳士潛襲其中下擊其不意攻

孫子有前設攻其不意者
孫子有所想攻其不備出其不意亦

聖皇一言以弱兵
引出敵

其元備敵人不知我情則止不至矣武王曰敵人知

我之情通我之謀動而得我其銳士伏於深草要

我隘路擊我便處為之奈何太公曰令我前軍日出

挑戰以勞其意令我左弱曳柴揚塵鼓呼而往未或

出其左或出其右去敵无過百步其將必勞其卒必

駭如此則敵人不敢來吾往者不止或襲其內或擊

其外三軍疾戰敵人必敗

動靜

是敵之動靜我之行

武王問太公曰引兵深入諸侯之地與敵人之軍相

當動靜者視視敵人動靜設者伏而待

車并... 見... 此... 一... 十... 必... 我...

敵與我
兩陣相望，眾寡強弱相等，未敢先奉吾敵。令人敵將
帥恐懼士卒，心傷行陣不同，故陣敵走前陣，敵顧敵
謀而乘之，敵人遂走。為之奈何？太公曰：如以者，我
兵去寇十里而伏，其兩旁車騎百里而越其前後，多
其旌旗，益其金鼓，戰合鼓譟而俱起，敵將必恐其軍
驚，眾寡不相救，貴賤不相持，敵人必敗。武王曰：敵
之地勢不可伏，其兩旁車騎又不可以越其前後，敵
知我慮先施，其備我士卒心傷，將帥恐懼，戰則不勝
為之奈何？太公曰：微哉！王之間也。如此者，先戰。五言。

直... 五言

九地才凡有... 孫子曰：用兵之法，有散地，有死地，有地，有死地，有地，有死地... 山林險阻，凡難行... 道者為死地，所由入者... 險所從，敵者近，後者... 可以擊者，吾之者為... 固地，在戰則存，不在... 戰則亡者，為死地也... 敵散地，則無戰，地則... 無止爭地，則無攻，地... 則無死，漸地，則合，重... 地，則探地，則行，固地... 其謀死地，則戰。

發我遠候，性視其動靜，審候其未設，伏而待之，必於
死地，與敵相避，遠我旌旗，疏我行陣，必奔其前，與敵
相當，戰合而走，擊金无上，三里而還，伏兵之起，或陷
其兩旁，或擊其前後，三軍在戰，敵人必走。武王曰：善
哉。
全鼓。禮記云：文王三十三陽，武王全鼓。全鼓者，鼓以直，全以止也。此以全鼓為多，而全中，內
武王問太公曰：引兵深入諸候之地，與敵相當，而天
大寒，甚暑，日夜霖雨，旬日不止，溝壑悉壞，隘塞不守，
所惟懈怠，士卒不戒，敵人來，三軍无備，上下或亂，
為之奈何？太公曰：凡三軍以戒為固，以怠為敗。令我

者未... 全鼓

用兵之道，上教其... 非其求，以地利... 慎是不同，塞不守，失其利，至以人更言，身惟懈怠，士卒不戒，三軍无備，上下或亂，則守備不嚴矣。

用兵之道，上教其... 非其求，以地利... 慎是不同，塞不守，失其利，至以人更言，身惟懈怠，士卒不戒，三軍无備，上下或亂，則守備不嚴矣。

非其求，以地利... 慎是不同，塞不守，失其利，至以人更言，身惟懈怠，士卒不戒，三軍无備，上下或亂，則守備不嚴矣。

直云令我軍上曲誰何者不此云

直云令我軍上曲誰何者不此云
貴軍過秦論信臣精卒陳利兵而誰何
上曲誰何不他人執旗旗內外相望以号相命勿令
延音而昏外向三千人為一地誠而約者必慎其
敵人若來視我軍之警戒至而必還力不氣息發
我銳士隨而擊之武王曰敵人知我隨之而伏其銳
士伴以不止途伏而還或擊我前或擊我后或為我
盟者三軍大恐擾亂出次離其地前為之奈何太公曰
分為三隊隨而追之而勿越其伏三隊俱至或擊其
前後或隔其兩旁明端審令疾擊而前敵人必敗

昔吳楚以擊後
說若我佳亦何為
五軍之受受必有
其利

直云絕道者敵人絕我糧道吾欲守之因而守所失也

絕道 敵絕我糧道守之

武王問太公曰引兵深入諸侯之地與敵相守敵人
絕我糧道又越我前後吾欲戰則不可勝欲守則不可
久為之奈何太公曰凡深入敵人之地必處地之
形勢務求便利依山險阻水泉林木而為之固謹
守閑隙又知城邑丘墓地形之利如是則我軍堅固
敵人不已絕我糧道又不已越我前後武王曰吾三
軍過大陵度沃平易之地吾惟望誤失率與敵人相
為以戰則不勝以守則不固敵人翼我兩旁越我前
後三軍大恐為之奈何太公曰凡出師之法常先發

兵貴為王至貴為
所越戰守但有不便

直云絕道者敵人絕我糧道吾欲守之因而守所失也
武王問太公曰引兵深入諸侯之地與敵相守敵人
絕我糧道又越我前後吾欲戰則不可勝欲守則不可
久為之奈何太公曰凡深入敵人之地必處地之
形勢務求便利依山險阻水泉林木而為之固謹
守閑隙又知城邑丘墓地形之利如是則我軍堅固
敵人不已絕我糧道又不已越我前後武王曰吾三
軍過大陵度沃平易之地吾惟望誤失率與敵人相
為以戰則不勝以守則不固敵人翼我兩旁越我前
後三軍大恐為之奈何太公曰凡出師之法常先發

本公知言必先發遠征，善知敵人所處，又慮不利地利，以武術車，各置所自衛之軍，兩軍旋後，取為右核。

武術車也，車，指之也。三少，車也，卜之也。

守法，以救而誠，以食而久，攻城圍邑，必先明乎以武王向太公以乘。

龍傳曰：德五年，公曰：昔將略地，正兵曰略者，處行之名也。

遠徙去敵二百里，審知敵人取在，地勢不利，則以武

衝為星而前，又置兩陣，軍於后，遠者百里，近者五十

里，即其有警，急前，后相救，告三軍常先望，必其毀傷

武王曰：善哉。略地，暑敵地，度自略，未也，要也。

武王問太公曰：戰勝，深入，略其地，有大城，不可下，其行而取

別軍，守險，與我相拒，我欲攻城，圍邑，恐其別軍卒至

而擊我，中外相合，擊我表裡，三軍大亂，上下散，後為

之，奈何？太公曰：凡攻城，圍邑，車騎必遠，屯衛，警戒，阻

其外，內中人，絕糧，外不得輸，城人恐怖，其將必降，武

王曰：中人，絕糧，外不得輸，陰為約誓，相與密謀，夜出

擊寇，死戰，其車騎銳士，或衝我內，或擊我外，士卒連

戰，三軍敗，亂為一，奈何？太公曰：如計者，當以軍為三

軍，謹視地形，而處審，知敵人別軍，取在及，其大城，別

堡為一，置遺，以道，以利，謹備，勿失，敵人恐懼，其心

不入，山林，即敵大邑，走其別軍，車騎遠，要其前，勿令

遺脫，中人以為先出者，得其利，道其練卒，材士必出

其老弱，執在車，務深入，長驅，敵人軍必莫敢，要慎

勿與戰，絕其糧道，圍而守之，必久，其日，其燒人，積聚

敵北降，不戰，無用。

其宮室，敵人安其居。

其宮室，敵人安其居。

其宮室，敵人安其居。

自今，保提也，靖之，度旬，增障，少城，或作堡，通作保，禮記，檀弓，入保，注，縣邑，少城，亦通，作保。

唐哥舒翰連，守堡，下，三，山，攻，下。

又知敵之別軍，與其大城，別堡，置遺，以道，以利，謹備，勿失，敵人恐懼，其心不入，山林，即敵大邑，走其別軍，車騎遠，要其前，勿令遺脫，中人以為先出者，得其利，道其練卒，材士必出，其老弱，執在車，務深入，長驅，敵人軍必莫敢，要慎，勿與戰，絕其糧道，圍而守之，必久，其日，其燒人，積聚，敵北降，不戰，無用。其宮室，敵人安其居。

按孫子文攻之法發
天有風起天有日
以教守之天發必而
以兵志之教上風則
元攻下風密其木要
起天有日時子天
燭之日五月在箕
塵上日轉人九宿
去風起日月九火
攻必月五六之變而
應之

无壞人宮室樹社稷勿伐降者勿殺得而勿戮示
之以仁義施之以厚惠令其士民曰罪在一人如此
則天下和服武王曰善哉
如以則彼曰不知其罪之所故在於其
主人者其主之冥冥奉命和服矣

火戰以敵引我陣處之燒來之戰也否則以下應天之法告

武王問太公曰引兵深入諸侯之地遇深草蒺藜用鳥公鳥犯二而中木茂良

吾軍前後左右三軍行數百里人馬疲憊休上敵入

因天燥疾風利燒吾上风車騎銳士堅伏若若吾

三軍恐怖散亂而走為之奈何太公曰若此者則以

雲梯飛樓遠望左右謹察前後見太火起即燒吾前

吾乃按里地而堅處也以下風地也如我營材士為衛如以敗敵不亡吾我營昔李陵伐匈奴之句以在上風能火燒後

而度延之又燒吾后敵人若至則引軍而却按黑地

而堅處敵人未往在吾後見火起必還走若按黑

地而處強弩材士衛吾左右又燒吾前后若以則敵

不亡吾我武王曰敵人燒吾左右又燒吾前后烟霞

吾軍其大兵按里地而起為之奈何太公曰若此者

為四武衝陣強弩翼吾左右其法无勝亦无負

墨虛此易攻難攻也又敵合陣取謀敵必引進人戰又難上之變
在其見極直直墨虛用者敵人必建無空懸我敵視而不知也

武王問太公曰何以知敵墨虛自來自去太公

曰將必上知天道下知地理中知人度登高下望以

知人者其主之冥冥奉命和服矣
自今說文曰
望望望望也

本末齊曰諸將但已
言避其鋒而及其
以敵解識其定者
則其理識為難知
宜其王必致有以知
史教則敵者必知三
（理上而天收下而地

自合守之。大匡中。暫出也。孫曰。大匡於中。何人之不意。突然而出也。

突戰

孫子孫九地。以在戰則存。不在戰則亡。者。為死。以所向。敵人長。適侵。操。保。軍。人。民。正。孫子。不。在。戰。則。七。之。地。利。也。我。主。為。求。以。守。固。戰。勝。之。道。而。不。去。則。以。是。為。先。兵。

右丈。敵。人。上。軍。為。三。四。或。戰。而。侵。掠。或。上。而。收。牛。馬。軍。未。至。至。而。使。寇。為。我。城。下。之。致。吾。三。軍。恐。懼。於。期。之。時。亦。推。空。戰。彼。既。未。至。至。吾。則。設。備。以。待。之。自。去。城。四。里。為。聖。以。下。皆。備。

武王問太公曰。敵人深入長驅。侵掠我地。驅我牛馬。其三軍大至。薄我城下。吾士卒大恐。人民係累。為敵所虜。吾欲以守。則固。以戰。則勝。為之奈何。太公曰。如此者。託之突兵。其牛馬必不得。食士卒絕糧。暴擊而前。令我遠邑。別軍。選其銳士。疾擊其後。審其期日。必會於梅。三軍疾戰。敵人坐息。將可虜。武王曰。敵以其分為四。三或戰。而侵掠我地。或止。而收我牛馬。其大軍未至。至而使寇為我城下。致吾三軍恐懼。為之奈何。

突門。掘地。突山門也。突門。三。川。出。曰。突。大。兵。也。

何太公曰。謹候敵人未至。則設備而待之。去城四里。而為。聖。金鼓。旗。旗。皆列。而張。別隊。為伏兵。令我。聖。上。多。積。旗。弩。百步。一。突。門。有。行。馬。車。騎。唇。外。勇。力。銳士。隱伏。而。處。敵人。若至。使。我。輕。卒。合。戰。而。佯。走。令。我。城。上。立。旌。旗。擊。擊。鼓。充。為。守。備。敵。人。以。我。為。守。城。必。薄。我。城。下。發。吾。伏。兵。以。衝。其。內。或。擊。其。外。三。軍。疾。戰。或。擊。其。前。擊。其。後。勇。者。不。得。圖。往。者。不。及。走。名。或。曰。在。戰。敵。人。坐。息。其。將。必。走。武。王。曰。善。哉。

敵強

直云。敵強者。有。過。敵。兵。之。強。而。出。者。與。之。戰。也。

聖。後。所。以。敵。聖。也。

敵。取。心。

武王未知所以用之
法而木不用之
故伏其材士強弩
翼以武車馳騁去
前後三里使敵逐我
而後發吾車騎以衝
之如以刻敵已植其
計中故彼必擾亂而
吾與之走者一自
安止矣

衝其左右如攻則敵人擾亂吾走者自止武王曰敵
人與我車騎相當敵與我少敵強我弱其未整陷精
銳吾陣不敢當為之奈何太公曰選我材士旌弩伏
於左右車騎堅陣而處敵人過我伏兵積弩射其左
右車騎銳兵疾擊其軍或擊其前或擊其後敵人會
與其將必走武王曰善哉

鳥雲山兵

鳥雲山兵 鳥雲化者如鳥散如雲合之也山高山又石之

直云鳥云山兵者遇
之山盤石與敵相拒
必結為鳥云之陣
以取勝也
武王云鳥云者有鳥
散而不以今爰化年
字所者也鳥云一折二集九上思八巴印時多九者也後後老武鳥合象十云八鳥合九如九云

武王問太公曰別兵深入諸侯之地遇高山盤石其
上亭之每有草木四面受敵吾三軍恐懼士卒連感
日今三軍富士山也句府三直丁山名在大山下爰蓮說一淨植

武表權歌

二曲高丁王廿七

梅花條水為誰之

百餘株宿也

山有陰陽有左右陰
陽之山一有山之左
右之山一有山之右
陽備處陰備處
處左備右處右備左
敵四方之皆有備

吾欲以守則固以戰則勝為之奈何太公曰凡三軍
處山之高則為敵所扼山之低則為敵所圍既以
被山而處必為鳥雲之陣鳥雲之陣陰陽皆備或也
其陰或也其陽處山之陽備山之陰處山之陰備山
之陽處山之左備山之右處山之右備山之左其山
敵所已陵者兵備其表衝道通谷絕以武車之高置
旌旗謹勅三軍使敵人知吾之情是謂山城行列
已定士卒已陣法令已行若正已設各里衝陣於
之表便兵所處乃為車騎為鳥雲之陣三軍疾發敵

太公論山溪之兵則于其法在山之兵既取鳥重之為兵亦在溪之兵亦取之是古人言鳥合之眾以其易散

人與眾其將之擒武王曰善哉

鳥雲沃之兵此以溪水之隔于戰意也

武王問太公曰引兵深入諸侯之地與敵相拒於信為鳥雲之陳以取其地

海濱度爾本外有敵之車駕出有百餘

拒敵富而眾我貪而寡踰水擊之則不毛前敵久其

日則糧食少吾兵在內之地四旁無邑又無草木三

軍無取掠取牛馬無所留牧為之奈何太公曰三軍

每備牛馬食士卒無糧如此者素便詐敵而亟去

設伏兵於後武王曰敵不可得而詐吾士卒遂感

敵人越吾前後吾三軍敗亂而走為之奈何太公曰

求途之道金玉為生必因敵便精微為室武王曰敵

人知我伏兵大軍不肯洩別將分隊以踰於水吾三

軍大恐為之奈何太公曰如此者分為衝陣便兵所

處須其畢出發我伏兵疾擊其右旅擊兩旁射其左

右車騎分為鳥雲之陣備其前後三軍疾戰敵人見

我戰合其大軍必洩水而未發我伏兵疾擊其後車

騎衝其左右敵人盡眾其將可走凡用兵之大要當

敵臨戰必置衝陣便兵所處然後以車騎分為鳥雲

之陣此用兵之奇也乘說鳥之者鳥散而雲合變化

太公始多造之詐

敵之法於敵不詐

則詐必有詐用故始

詐文其為詐曰向向

求途之道金玉為生

人知我伏兵大軍不

軍大恐為之奈何太

處須其畢出發我伏

右車騎分為鳥雲之

若夫尾向以全親人呼而敗故孫臏之計非馬陵通隘尾向莫至則孫臏之謀亦無所施

若夫之弱擊強者則必大國之與隣國之物資其力以勝之昔夫楚子伐却而楚叶夜適是豈却從而楚

弱邪豈大國之與隣國之物資其力以勝之昔夫楚子伐却而楚叶夜適是豈却從而楚

其途既遠則其行必遲故少衆以少擊大以弱擊強之意

今夫日莫自其未及晦未及昏之時而擊人則以亂其衆而走其將交際之亂則大國所安大國必與隣

直之少擊大者以吾兵武王問太公曰吾欲以少擊衆以弱勝強為之奈何太公曰

敵設奇而取捷太公曰以少擊衆者必以日之暮伏於深草要之隘

路以弱擊強者必得大國之與隣國之物武王曰我

其深草又其隘路敵人已至不適日暮我軍大國之

與又各隣國之物為之奈何太公曰妄張詐誘以受

敵其將迂其道令過深草遠其路令會日暮前行未

渡水后行未及舍發我伏兵疾擊其左右車馬擾亂

後敵我

直之分險者過險阻之地與敵人守相拒也

其前後敵人金魚其將可走復大國之君下鄰國之

士厚其弊軍其辭如則得大國之與鄰國之助矣此

武王曰善哉

大抵分險戰守之法處山則嚴為備水則必思所濟既則敵求其利則必謹所守處左備右處右備左則其

為備之嚴金元舟楫則以分險

後而濟則可以濟不通也既

濟而度道之便戰

是是又求其利之置

武衛列強弩之塞

衡谷立旌旗是又

孫臏

楚子

叶夜

楚

大國

所安

大國

必與

隣

國

所

受

之

日

暮

行

未

渡

水

後

行

未

及

舍

發

我

伏

兵

武王

曰

善

哉

分險

後

而

濟

則

可

以

濟

而

度

道

之

便

戰

是

是

又

求

其

利

之

置

武

衛

列強

弩之

塞

衡

谷

立

旌

旗

是

又

敵

求

其

利

之

置

武

衛

列

強

弩

之

塞

衡

谷

立

旌

旗

戰所以武衝為前，后列其旗，擊令行陣皆固。衝道各

口以武衝為前，高置旗，是說車城。凡險戰之法，亦

武衝為前，大櫓以為衝材。士強弩翼吾左右。三千人

為一屯，必置衝陣，便兵亟處左軍，以左右軍以右中

軍以中並攻而前，已戰者逐敵也。所更戰更息必勝。

乃正武王曰善哉。

六韜卷五終六之始。

武王曰善哉。

大韜。

分合。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

武王曰善哉。

分合者為軍軍聚

不聚為孤旅分合

之要與之入大要故

六韜卷五終六之始

武王曰善哉

大韜

分合

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

武王曰善哉

九十四度皆敵人取可擊之形之審。審是度而後擊之則敵必敗矣。
失地利者之審。審是度而後擊之則敵必敗矣。
依山未列周文帝所
以克之。

武王曰：敵可擊，則擊之。如少而可擊，太公曰：夫敵擊者，當審察敵人十四度，見則擊之，敵人必敗。武王曰：十中

度可得，同乎太公曰：敵人新集，可擊。人馬未食，可擊。

天收不項，可擊。地形未得，可擊。奔走可擊，不戒可擊。

疲勞可擊，將離士卒可擊，涉長路可擊，濟水可擊，不

暇可擊，阻難狹路可擊，亂行可擊，心怖可擊。

武王問太公曰：練士之道奈何？太公曰：軍中有大勇

敢死，無傷者聚為一卒，名曰冒刃。士有銳氣壯勇

直之傳士者，少而練材者，力之士各以聚，聚之也。直云：果敢於死，善於事其師，其

老子德至，任強果者，理不信言，少背叛道，地不從，經教高，勢任力也。

因其志而用之，則天下之志有所伸，曰冒刃之士，曰陷陣之士，曰奇表長劍，按武

距北殘左，距難

為勇多，如其敵

勇特取，如

朱勇銳

距梁口，曰難

注各其處，委付少，以良家

善射，射力，林後，石

按距絕，於，倫，注在

口投石，以石投人，後距

十九年，一翼文，付，送宮，送，海皇，是，見軍，兵，以，迎，種，武，李，後，胡，地，在，營，

名曰劬，能之士有胥，廉免罪，人，款，逃，其，耻，者，聚，為

曰必死，之士有贅，婦人，膚，故，掩，迹，揚，名，者，聚，為

曰死憤，之士有貪，窮，忿，怒，故，快，其，志，者，聚，為

士有王臣，失，勢，故，復，見，切，者，聚，為

士有死將，之人子，弟，故，為，其，將，報，仇，者，聚，為

多力，潰，破，金，鼓，絕，滅，旌，旗，者，聚，為

士有踰，高，絕，遠，輕，足，善，走，者，聚，為

強暴者聚為一卒，名曰陷陣之士，有奇表長劍，按武

割列者聚為一卒，名曰勇銳之士，有拔距，伸鈎，強梁

士有踰高絕遠輕足善走者聚為一卒，名曰冠兵

士有死將之人子弟故為其將報仇者聚為一卒，名

曰死憤之士有貪窮忿怒故快其志者聚為一卒，名

曰必死之士有贅婦人膚故掩迹揚名者聚為一卒，

名曰劬能之士有胥廉免罪人款逃其耻者聚為

名曰劬能之士有胥廉免罪人款逃其耻者聚為

名曰劬能之士有胥廉免罪人款逃其耻者聚為

名曰劬能之士有胥廉免罪人款逃其耻者聚為

名曰劬能之士有胥廉免罪人款逃其耻者聚為

士不素教不可用也法言矣士卒孰能法又言矣是則不教民戰豈不使民戰之法必有其術也哉
武王曰凡後軍者教之不過全數也中令之明習變也教之已進也金以止之也一進一退各有其節也士與
之取以整齊有三令而中令之既明軍法乃可以行也必先明其教士甲以三令其教
莫當者於一人也則莫於百萬也自一人教成之後合之十人十人合成百
百合之萬萬合之三軍而大戰合之百萬皆由是教之及也推
合之有序教之有素此所以成其大兵而立威於天下

一卒名曰倖用之士有材技兼人能負重致遠者聚為一卒名曰待命之士此軍之練士不立不察也

教戰

先戰法者兼人教進退者皆所當也直也教戰者教之生作進退分合解法之法

武王問太公曰合三軍之眾故念士卒服習教戰之道奈何太公曰凡領三軍必有金鼓之節以整齊

士眾者也將必光明告吏士中之以三令以教操兵起居旌旗指麾之變法故教吏士使一人學戰教成

合之十人... 學戰教成合之百人... 學戰教成合之千人... 學戰教成合之萬人... 學戰教成

合之十人... 學戰教成合之百人... 學戰教成合之千人... 學戰教成合之萬人... 學戰教成

司馬法有止兵五為制是則兵之教戰皆有所為也况車步騎乎昆錫者師也形也說之士山丘阜步兵也車馬二不為一平原曠野車馬也地之步兵十不為一是三在通相與戰必有所為均而用之也元術乎此武王以車馬步三為所為教而

合之三軍之眾大戰之法教成合之百萬之眾故能成其大兵之威於天下武王曰善哉

均兵

直均兵車馬步三者視地之陰陽相參而使其勢力均也調平也

武王問太公曰以車與步卒戰一車當元步卒幾步卒當一車以騎與步卒戰一騎當元步卒幾步卒當一騎以車與騎戰一車當元騎幾騎一車太公曰

一騎以車與騎戰一車當元騎... 當一車太公曰

車者軍之羽翼也乘之陷堅陣要強敵遠走地也騎者軍之伺候也取之踵敗軍絕糧道擊手便寇也故車

騎不敵戰則一騎不能當步卒一人三軍之眾成陣

其所以為八人若以車與騎戰則一車又曰以高十步至於陰地則其所為之教不及於易也故一車持之者步卒四十人一騎持之者四人以車與騎戰一車亦只以高六步是皆因地形而異其數也

為四人以車與騎戰一車亦只以高六步是皆因地形而異其數也

五武五者百五十八引其系束縛作起系
自奮毛顛傳按其其是
載穎而碎聚其族
而加束縛也

武王問太公曰選車士奈何太公曰選車士之法取
年四十以下長七尺五寸已上走能逐奔馬及馳而
乘之前后左右上下周旋能縛束旗力能鼓八石
弩射前后左右皆便習者名曰武車士不可不厚

武王問太公曰選騎士奈何太公曰選騎士之法取
年四十已下長七尺五寸已上壯健捷疾超絕倫等
能馳騎鼓射前后左右周旋進退越海墮登丘陵冒
險阻絕大澤馳強敵亂大衆者名曰武騎士不可

不厚也

戰車
武王問太公曰戰車奈何太公曰步貴知變動車貴
知地形騎貴知別徑奇道三軍同名而異用也凡車
之死地有十其勝地有八武王曰十死之地奈何太
公曰往而貴以還者車之死地也越絕險阻乘敵遠
行者車之竭地也前易後險者車之困地也陷之險
阻而難出者車之絕地也下墜沃黑地黏地者車
之勞地也左險右易上陵仰阪者車之逆地也

戰車
武王問太公曰戰車奈何太公曰步貴知變動車貴
知地形騎貴知別徑奇道三軍同名而異用也凡車
之死地有十其勝地有八武王曰十死之地奈何太
公曰往而貴以還者車之死地也越絕險阻乘敵遠
行者車之竭地也前易後險者車之困地也陷之險
阻而難出者車之絕地也下墜沃黑地黏地者車
之勞地也左險右易上陵仰阪者車之逆地也

戰車之制敵亦宜宜步之車
一知地形騎所為軍之伺候故走知步往別道其所宜不同三軍同名而異用則
不別其宜也三軍之
所以同名亦宜用
本條皆同衛云以車
步三卒一法其用
在矣乎

兵惟有是制敵亦宜宜步之車
一知地形騎所為軍之伺候故走知步往別道其所宜不同三軍同名而異用則
不別其宜也三軍之
所以同名亦宜用
本條皆同衛云以車
步三卒一法其用
在矣乎

黏女廉反相一着者
漢方丈五寸通車之
水方寸師古曰通
曰濶也
楚程曰地

文獻通考卷五百六十八引
此等字樣水作新水

橫畝犯歷深澤者車之拂地也車少地易與步不敵
者車之敗地也后有溝澆左有深水右有峻阪者車
之壞地也日夜霖雨旬日不止道路潰陷前不能進
後不能解者車之陷地也此十者車之死地也故拙
將之取以見捨明將之取以能避也武王曰八勝之
地奈何太公曰敵之前后行陣未定即陷之旌旗樓
亂人馬數動即陷之士卒或前或后或左或右即陷
之陣不堅固士卒前后相顧即陷之前往而疑后恐
而怯即陷之三軍卒驚皆落而起即陷之戰於易地

辨與拂地帶之凡之流文帶遠之或作拂史解非付大忠
无所拂詩四
也言元德侯侯
孟子行拂亂其
所為注拂庚
而亂之也

料敵制勝計險厄遠近上將之道
則將能制勝聖霍去病李陵
之捷在處則李靖尉遲敬德
李光弼薛仁貴皆
將之使教君子不知
走勝之勝負之地則
亦何之已成功耶勝不
的或列則韓信未敢
下井注

莫不能解即陷遠行莫令三軍恐懼即陷之此之而
八者車之勝地也將明於十言八勝敵無用周千乘
萬騎前駢旁馳百戰必勝武王曰善哉
武王問太公曰戰騎奈何太公曰騎有十勝九敗武
王曰十勝奈何太公曰敵人始至行陣未定前后不
屬陷其前誘擊其左右敵人必走敵人行陣整齊堅
固士卒敵圍吾騎翼而勿去或馳而往或馳而來集
疾如風其暴如雷白晝而昏數更旌旗變易衣服其軍

自敵人行列未定之皆其敗故勝惟其可勝所已走敵克敵
直云戰騎者以騎與敵戰而取勝也

可克敵人行陣不同士卒不闕其前後獵其左右
翼而擊之敵人必懼敵入莫敵故舍三軍恐駭翼其
兩旁疾擊其後薄其墨口無使得入敵人必敗敵人
其險阻保固深入長驅絕其糧道敵人必飢地平而
易四面見敵車騎陷之敵人必亂敵人奔走士卒散
亂或翼其兩旁或掩其前後其將之擒敵人莫返其
兵甚眾其行陣必亂念我騎十而為勝百而為屯車
五為聚十而為群多設旌旗雜以強弩或擊其兩旁而
或絕其前後敵將可擒此騎之十勝也武王曰九敗

十勝以上有八者其二脫簡也又八字誤作
每及之克敵所存止於八者意其侍者失十字

頃私云山岩頃壘馬下云時毛也之有說左傳戰于柏斗云之二頃字各左昭元年師徒不與自今
頃壘又柳文十四頃壘路也云云頃壘地也云云頃壘

私云
天井上降子天井天字天
隙上ト云リ天井天字天
井中ノ石才三時雨
河玉陰淡流漲天井
韓文才五時時晴天
井溢誰知長劍倚天
行注據曰天井關名
在大行山上水徑曰天井
溪出天井關山流注曰
水徑之山流泉水自
天井傾瀉而下如長劍
倚山

奈何木云曰凡以騎陷敵而不能破陣敵人佯走以
車誘返擊我後此騎之敗地也騎追此險險長驅不
止敵人伏我兩旁又絕我後此騎之困地也性而無
以運入而無以出是騎陷於天井頃壘於地此騎之
死地也既後入者隘既從出者遠彼弱可以擊我強
彼寡可以擊我眾此騎之沒地也大洞深谷鬱蔭林
木此騎之竭地左右有水前有大澤后有高山三軍
戰於兩水之間敵居表裡此騎之艱地也敵人絕我
糧道此而無以返此騎之困地也河下沮洳進退漸
汗自會云注相切說文平

於使及得水又河水不流者水臣之
汗玉篇濕水也下中余之汗下濕也
汗玉篇濕水也下中余之汗下濕也

直人惠梅車騎之敗
皆以地言者視吾自
陷於地形之患使致
敗此人敗之也

如敵及人怒及說又生乎斷是
如地騎之患地也左右深溝右有坑阜高下如平地

進退誘敵此騎之陷地也此九者騎之死地也明將

之取以遠避爾將之取以陷敗也

戰步

直公戰步者以步兵與車騎戰而敵取勝也

武王問太公曰步兵與車騎戰奈何太公曰步兵與

車騎戰者必依丘陵險阻長兵強弩居前短兵弱弩

居後更發更止敵人車騎至而堅陣在戰材

士強弩以備我后武王曰吾在丘陵又立險阻敵人

之至既眾且武車騎翼我兩旁獵我前后吾三軍恐

太公均兵之法說一車高步卒八千人則車騎勢盛而步兵勢微之於此我侵却之伯理彼
使我車情其侵熱我是則法不於戰外則用之而所以用之則貴乎也此以步兵與車騎戰在丘陵險阻必依于

怖亂敗而走為之奈何太公曰令我車卒行馬疾

藜里牛馬隊位為四武衝陣望敵車騎將來均里差

藜墟地迎后度深五天名曰命鼃人操行馬進退

車以為墨推而前后立而為屯材士強弩備我左右

然後令我三軍皆疾戰而必酣武王曰善哉

六韜卷第六之終

武王又慮走元陰阻之恃而軍士恐怖則何以哉若此也直以拒禦者高為藜藜里牛馬為屯四武衝陣墟地者
命鼃操行馬以固止使材士強弩以備之凡此皆拒禦也

直公思梅車騎平車尤之亂始制軍法因井田之卒位之數以奮武威一以昭文德
維重人亦不究於不用也是以虞有三苗之師又有射鹿之征陽有鳴條之伐武有牧
野之戰周公有東山之役孔子有却荊蒯隨其具之卒由是言之兵其可廢乎

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...

六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

十一、...
十二、...
十三、...
十四、...
十五、...

十六、...
十七、...
十八、...
十九、...
二十、...

二十一、...
二十二、...
二十三、...
二十四、...
二十五、...

二十張





132X
32/3
2